

**福岡県立美術館将来構想検討委員会 報告**

**新しい福岡県立美術館のあり方について**

**平成20年8月**

**福岡県立美術館将来構想検討委員会**

# 目 次

はじめに	1
第1 新・福岡県立美術館の必要性	
1 福岡県立美術館を巡る状況	3
(1) 国及び県の文化芸術政策	
(2) 文化芸術に関わる社会状況の変化	
(3) 美術及び美術館の状況の変化	
(4) 福岡県内の美術館や文化芸術活動の状況	
2 福岡県立美術館の現状	10
(1) 福岡県立美術館の課題	
(2) 福岡県立美術館の貢献	
3 新・福岡県立美術館の必要性	15
(1) 「県立」の美術館としての必要性	
(2) 独自性と現代性を備えた美術館の必要性	
4 福岡県立美術館の評価	17
第2 新・福岡県立美術館が目指す方向性	
1 理念	18
2 基本方針	19
第3 新・福岡県立美術館が目指す方向性を実現する具体的提言	
1 求められる活動や機能	22
(1) 「県立」の美術館として必要な活動について	
(2) 独自性と現代性を発揮するために必要な活動について	
(3) 美術館の魅力を高めるために必要な活動について	
(4) 求められる機能について	
2 求められる活動や機能を推進する体制	25
(1) 多くの参画者を巻き込む推進体制について	
(2) 人材や組織について	
(3) 美術館評価について	
3 設置や建築手法に関する検討	26
(1) 立地について	
(2) 設置について	
(3) 建築手法について	
おわりに	29
資料編	31
「福岡県立美術館将来構想検討委員会設置要項」	59
「福岡県立美術館将来構想検討委員会委員名簿」	60
福岡県立美術館将来構想検討委員会の審議の経緯	61

## はじめに

---

美術館は、美術作品を陳列するだけの場所ではない。

そもそも美術は人間の自由な精神の表れであって、美術館はなによりも、美術作品をとおして、人々に美術を貫く人間精神の広がりや深みを伝え、自由な心をはぐくむことで、人々の生活を精神的に豊かにすることを目的としている。

福岡県立美術館は県立の教育機関として、まず、美術館のもつこの本質的な教育的使命を県民すべてに果たしていく責務がある。すなわち、福岡県立美術館は県内の子どもから高齢者まで、また住んでいる地域や置かれている境遇に関わりなく、美術のもたらす精神的な恩恵を等しく享受できる環境を整備しなければならない。

美術の多様なあり方や新しい展開それ自体が、人間の自由な精神の表れであるが故に、さまざまな美術表現に触れる機会と場を提供することも、美術館の重要な教育的使命のひとつである。そこで福岡県立美術館は、県内でこれまで接することが困難であった美術の新しい姿を紹介するとともに、美術にとどまらない県内の幅広い創造活動や生産活動にも視野を広げ、福岡県の独自性と、今を映し出す現代性を備えた美術館であることが求められる。美術のもつ社会的な価値を見出し、創り出すことも、福岡県全体の発展を目指す県立の機関としての責務だからである。

福岡県立美術館は、前身である福岡県文化会館（昭和39年開館）以来、福岡県に関わる美術の紹介、県展や展示室の提供による県民の創作活動の支援、そして国内外の優れた美術作品の紹介に努めてきた。

しかし、もともと美術館仕様でないことに加え、時を経て、施設の老朽化や狭隘化に伴い、さらには県内に多くの美術館が設置されたことで、これまで培ってきた福岡県立美術館の独自性が県民に見えにくくなってきた。さらに近年は文化芸術に対する県民の関心や期待も多様化し、福岡県立美術館は、その教育的使命を十分には果たすことができなくなっている。

そこで、時代に向かい合った新世代の美術館としてその教育的使命を遂行するために、福岡県立美術館は、県立としての役割、福岡県にあることの可能性、美術館であることの任務に立ち返って再構築されねばならない。

この課題に応えるため、本検討委員会は、新しい福岡県立美術館の必要性や役割を明らかにし、新しい福岡県立美術館が目指す方向性について、その理念や基本方針、機能等を具体的に提言する。

私たちは、この提言において示した新しい福岡県立美術館が実現されたとき、今を生きる人々の創造力を駆り立て、すべての県民の未来への夢と希望をはぐくむであろうことを信じて疑わない。

# 第1 新・福岡県立美術館の必要性

## 1 福岡県立美術館を巡る状況

### (1) 国及び県の文化芸術政策

#### (ア) 文化芸術に対する社会的重要性の認識の高まり

文化芸術の振興について国の方針等を示すものとして、平成13年に「文化芸術振興基本法」が施行され、その後、「文化芸術の振興に関する基本的な方針」として第1次方針（平成14年）及び第2次方針（平成19年）が閣議決定されるに至り、文化芸術の社会的な重要性が、明確に認識されるようになってきた。第1次及び第2次方針において、美術館については、「優れた文化芸術の創造、交流、発信の拠点や、地域住民の文化芸術活動の場として積極的に活用され、その機能・役割が十分に発揮できるよう」施策を講ずるとされている。

特に第2次方針では、重点的に取り組む事項として、「子どもの文化芸術活動の充実」が掲げられ、基本的施策として、「学校等と連携しつつ、地域の美術館・博物館における教育普及活動を充実させることにより、子どもたちの芸術に対する感性や郷土の歴史・文化に対する理解をはぐくむ取組の促進」等が盛り込まれている。

福岡県においては、平成17年に「福岡県文化振興プラン」が策定され、「県民一人ひとりの自主性及び創造性が尊重され、多様な文化芸術の保護・発展が図られるとともに、県民の主体的で多彩な文化活動の展開により、豊かな県民生活と活力ある地域社会をつくる」ことが基本理念として掲げられている。

この基本理念を踏まえ、「あらゆる人が文化を享受し、創造できる環境づくりを目指す」ことなどが、文化振興の視点として示されている。

#### (イ) 学校教育における美術館活用の重視

平成14年度から全面実施されている現行の学習指導要領の図画工作（小学校）及び美術（中学校）において、地域の美術館等を利用することが初めて明記されるなど、学校教育において、美術館の活用や

連携が重視されるようになった。

さらに、小学校では平成23年度から、中学校では平成24年度から全面実施される新しい学習指導要領では、伝統や文化に関する教育の充実が重視すべき点として掲げられるとともに、引き続き、美術館や博物館等の積極的活用を求めている。

## (2) 文化芸術に関わる社会状況の変化

### (ア) 心の豊かさへの希求、文化芸術を通じた社会貢献への希求

社会の成熟とともに、精神的な潤いや心の豊かさが求められるようになってきた。それに伴い、文化芸術分野に関心を抱き、美術館での鑑賞や作品創作などの活動を行う人も多くなってきた。

また、社会貢献活動に対する意識が高まるにつれ、文化芸術分野においても、ボランティアとして活動する人や、事業や運営の担い手ともなるアート系NPOに参加する人たちも増えてきた。

高齢化の進行とともに、多くの高齢者が生き甲斐につながる自己実現として、文化芸術の鑑賞、創作活動や、文化芸術に関わる社会貢献活動に意欲的に取り組むようになってきた。

今後、いわゆる団塊世代が高齢者層へと組み込まれていくにつれ、文化芸術分野で行動する人もさらに増えていくことが予想される。

### (イ) 文化芸術による地域力向上や社会活性化への気運

地域の活性化を直接的な経済政策からでなく、文化芸術分野の施策を通して実現し、魅力ある地域社会を形成する試みが近年、各地で始まってきた。

「九州・沖縄から文化力プロジェクト」や「関西元気文化圏」、「丸の内元気文化プロジェクト」など、「文化力」といった観点から地域社会を「元気にする」運動はそのひとつである。

また、文化芸術が本質的に有している創造性に着目し、地域の文化芸術資源を積極的に活用した地域づくりを行っている地方自治体も出てきた。「文化芸術創造都市」を掲げる横浜市をはじめ、大阪市や金沢市などでは、芸術における実験的な試みが、産業育成や都市政策の

一環として実施されるようになってきた。

情報通信ネットワークの世界的な発達によって、あらゆる分野でグローバル化や標準化が進行するなか、画一化への危機感から、文化多様性という考え方が唱えられるようになってきた。文化芸術は異文化に対する尊敬をもたらし、他者の存在を認めるといった、健全な精神を涵養する教育的な役割を担っていることが、あらためて認識されるようになってきた。

### (ウ) 行財政改革に伴う文化施設を取り巻く環境の変化

地方自治体において行財政改革が進行し、公立文化施設についても、予算や人員が削減される傾向にある。このため、施設運営の一層の効率化が求められるとともに、その施設が果たすべき使命が達成されているかどうかの評価や検証も、厳しく行われるようになってきた。

「官から民へ」の潮流に沿い、平成15年地方自治法の一部改正により「指定管理者制度」が導入された。この制度は、公の施設の管理に民間の能力を活用しつつ、経費の節減等を図ることを目的とするものであり、運営のさらなる効率化が目指されるようになってきた。

## (3) 美術及び美術館の状況の変化

### (ア) 旧来の枠組みを超えた美術表現の拡大

日本画や洋画、彫刻といったこれまでの枠組みでは捉えられなくなった美術作品が見られるようになってきた。

インスタレーションと呼ばれる、展示空間に応じて立体物を構成した作品や、身体的な動作そのものを主題として表現するパフォーマンス、アニメーション、さらにはインターネット上のコンテンツ作品や、音楽やIT等と融合した作品など、用いるメディアが多様になったことで、その表現もさまざまな形態を示すようになってきた。

また、形ある作品を制作するのではなく、プロジェクトそれ自体を作品とするような作家も出現し、「美術」という言葉でくくられる範囲と概念は拡大の一途をたどっている。

#### (イ) 美術館に特化されない発表形態の拡大

美術表現の拡大に伴い、その発表も美術館や画廊といった、美術に特化した空間に限られるのではなく、街や自然の中などでも行われるようになった。

新潟県の広大な田園地帯を会場とした「大地の芸術祭 越後妻有<sup>つまり</sup>アートトリエンナーレ」や港湾施設を会場とした「横浜トリエンナーレ」などのように、地域の活性化や街おこしと結びついた大規模な展覧会が、NPO やボランティアと協働して開催され、大きな反響を呼び成果を上げている。

#### (ウ) 世界の美術館の現況

近年の目立った特徴は、欧米の有名美術館が、次々と施設の拡充や大規模な分館を開設したことである。

グッゲンハイム美術館のビルバオ分館（スペイン 1997年）やテート・ギャラリーの拡充としてのテート・モダン（ロンドン 2000年）、ニューヨーク近代美術館の全面改装を伴う増築（2004年）、プラド美術館の新館（マドリード 2007年）などが開館し、またルーブル美術館のアブダビ分館（アラブ首長国連邦）も、その壮大な計画が話題を呼んでいる。

こうした巨大美術館は、都市デザインの核となり、大きな観光資源としての役割も担っている。

一方で、必ずしも収蔵品を持たず、美術に関わる多彩な企画の実施に主眼を置いたアートセンターの活躍も注目を集めている。

1947年に開設されたICA（Institute of Contemporary Arts ロンドン）を先駆として、音楽や演劇なども含め最先端の表現を紹介する「クンストヴェルケ」（ベルリン 1999年）や先端的テクノロジーを用いた美術表現をテーマとする「アートセンター・ナビ」（ソウル 2000年）、野心的な実験的企画を打ち出す「パレ・ド・トーキョー」（パリ 2002年）など、いずれも現代美術を対象とした展覧会やアート・プログラムを実施し、世界の先端的な美術表現の発信源となっている。



教育普及部門に関しても、欧米の美術館は先進的な活動を精力的に行っている。

美術館に来ることがなかった人たちや子どもたちが、美術館に親しみを抱くための鑑賞プログラムや、教員を対象とした教育プログラムなどを開発し、美術に関心を寄せる人々の裾野の拡大に努めている。一方で、会費や寄付金に応じた特別鑑賞会やパーティも行われるなど、多様な来館者を美術館に惹きつけるさまざまな取り組みを、組織的かつ専門的に実施している。

また、美術館スタッフが来館者に作品解説を一方向的に語るのではなく、観客と対話しながら作品の理解を進めていく、双方向的な鑑賞法なども開発し、来館者の好評を得ている。

## (エ) 日本の美術館の現況

日本においても、大型美術館の開館が相次いでいる。

特に森美術館（平成15年）、国立新美術館（平成19年）、サントリー美術館（平成19年）の3館による「六本木アート・トライアングル」の出現は注目を集め、東京都心の新しいアートスポットとして多くの観客を集めている。さらに金沢市中心街の人の回遊性を創り出した金沢21世紀美術館（平成16年）、開発が進む那覇新都心に博物館との複合施設として建てられた沖縄県立博物館・美術館（平成19年）のほか、長崎県美術館（平成17年）や青森県立美術館（平成18年）など、各地で大型の美術館が登場している。

これらはいずれも、その地域や地方の文化や観光、賑わい創出などの面でも期待され、都市再生の中核的な役割を担っている。

独自の企画を主軸とする公設のアートセンターも増えている。

24時間使用可能な創作アトリエを備え、音楽や演劇等の発表も行える金沢市民芸術村（平成8年）や、作家の滞在制作を中心においた秋吉台国際芸術村（山口県 平成10年）、映像系のプログラムを展開している「せんだいメディアテーク」（仙台市 平成13年）、歴史的建造物を利用し、都市的機能とも連動した斬新なアート・プログラムを企画する「バンカート」や「ザイム」（横浜市 平成16年）などが、それぞれ特色あるテーマを掲げた企画を、外部の人たちとも連

携しながら展開している。

また、アートセンターを設置している自治体は、美術館も併置している場合が多く、互いに役割を分担して多面的に文化芸術の振興を図っている。

美術館活動のなかで、学校や子どもたちを対象とした教育普及活動が、近年特に目立って盛んになっている。

鑑賞用のワークシート（問答式のプリント）や収蔵品についてのガイドブックの作成、学校へ貸し出す鑑賞教育用の教材の開発や学校への出前授業なども行われるようになった。また子どもや親子、さらには乳幼児を持つ保護者など、特定の対象者に的を絞った展覧会や体験型鑑賞なども美術館で開催されている。

#### （４）福岡県内の美術館や文化芸術活動の状況

##### （ア）県内美術館の状況

昭和31年に、県内最初の美術館である石橋美術館が久留米市に開館し、次いで同39年に、本格的な展示施設を有し、企画展を開催する福岡県文化会館が、同49年に、市民ギャラリーや常設展示室、特別展示室が揃った県内初の総合美術館として北九州市立美術館が開館した。

以後、福岡市美術館や田川市美術館、福岡アジア美術館などが開館し、県内各地に美術館が点在する状況になった。しかしいまなお、地域的な偏重が残り、美術館施設は不均衡に分布している状況にある。

参照【資料 - 1 「福岡県内の主な美術館」】

県内の美術館は、収蔵作品の質や量、あるいは開催する展覧会規模の大小の違いはあるが、全体としてみれば、概ね日本画や洋画、彫刻といった従来の美術分野を中心とした近代の作品を収集し、その基盤に立った展覧会活動等を行っている。

このように同質的な美術館が多い中で、収蔵分野の幅広さや収蔵品の質や量といった点では、福岡市美術館が卓越し、特質性という点では、福岡アジア美術館がアジア美術の紹介や作家の滞在制作という独

自色を發揮し、「CCA北九州」が美術の教育セミナーを主体としたアートセンターとして活動している。

(イ) 県民の美術活動や関心の動向

a 美術に関心を抱く県民は多い

文化芸術分野のなかで、クラシック音楽や映画、ポピュラー音楽等と比べて、美術に関心を抱く県民が最も多い。しかし音楽会や美術館等に出かける人の割合を示した鑑賞の「行動率」と呼ばれる指標で見ると、美術鑑賞は高い割合を示しているとはいえ、映画鑑賞の半分にも満たない。このことは、美術に関心をもちながらも、美術鑑賞という行動に必ずしも結びついていない県民が多いことを示している。

しかし平成17年に開館した九州国立博物館が、2年間で400万人を超える入場者を数えたことは、これまで鑑賞行動をとることのなかった潜在的な美術愛好者層が顕在化したとも考えることができる。

参照【資料 - 2「関心のある文化芸術分野(福岡県)」】

【資料 - 3「文化芸術関連の行動率」】

b 創作活動を行う県民の裾野は広い

文化芸術分野での創作や演奏など鑑賞以外の活動の行動率を見ると、読書に次いで美術作品の創作を行う県民の割合が高い。

また、全県規模での総合的な美術公募展である福岡県美術展覧会(県展)は、全国でも有数の出品者数を数える。さらに地域で開催されている公募展も盛んで、ことに南筑後地域は他地域と比して活発である。このように美術の創作活動を行っている県民の裾野は広い。

参照【資料 - 3「文化芸術関連の行動率」】

【資料 - 4「主な県の美術公募展(県展)の状況」】

【資料 - 5「福岡県内の美術公募展の状況」】

c 文化芸術に関わるNPOや、支援に関心を寄せる県民が増えている

社会貢献活動への意欲がさまざまな分野で高まる中で、文化芸術に関わるアート系NPO組織も増加傾向にある。

また、文化芸術分野において、ボランティア等として支援活動を行うことに関心を寄せる県民は多く、県内の美術館で、陳列作品の解説やイベントの補助、資料の整理などを行うボランティア活動を行って

いる人も少なくない。

参照【資料 - 6「福岡県におけるアート系NPO法人数」】

【資料 - 7「文化芸術における関心のある支援活動（福岡県）」】

d 美術関連の多面的な広がりが進行している

福岡県におけるデジタル・コンテンツ産業の育成に呼応して、ゲームやウェブなど、コンテンツ系デザイン産業が活発化している。

また、博多織や大川家具等の伝統産業分野において世界に向けたデザイン戦略が重要視され、ファッション分野においても県として産業集積の拠点化を推進するなど、福岡県の産業発展において、デザイン関連分野への注目度が高い。

さらには、都市景観とともに近代化遺産や歴史的建造物を活かした街の景観づくりなども話題になるなど、社会や生活の中の美的な表現への関心が高まっている。

e 若手作家の制作活動を支える場や機会が少ない

県内には、美術系大学等があるとはいえ、卒業後も美術活動を継続できる制作場所や発表場所、助成、制作補助者などを求めることが困難な状況にある。そのため、意欲に富んだ創造的な人材が、福岡県から流出するような状況に陥っている。

## 2 福岡県立美術館の現状

### (1) 福岡県立美術館の課題

福岡県立美術館は、昭和39年に開館した福岡県文化会館を前身としている。図書館と美術館を併置した文化施設として設置された福岡県文化会館は、九州はもとより全国的にも早い時期の開館であり、美術鑑賞や創作発表における福岡県で唯一の本格的な施設であった。その後、図書館が分離し、改装を経て同60年に福岡県立美術館として開館したが、時を経て、以下のような課題が生じてきた。

#### (ア) 施設の狭隘化と老朽化

福岡県立美術館に改装したとはいえ、躯体の構造は変わっておらず、

建物の基礎的な構造がそもそも美術館仕様ではない。

天井高が低く、また他の都道府県立美術館をはじめ、福岡市美術館や北九州市立美術館と比して、展示室のみならず収蔵庫の面積も狭い。そのため、たとえば福岡県美術展覧会（県展）では、入選作の展示を4期に分けて実施せざるを得ず、また企画展等での展示作品や収蔵作品が、建物の仕様によって大きく制限される状態にある。

また、作品発表の場として県民に提供する展示室と、美術館主催の特別展を開催する展示室が分離されず、共用しているため、展示室の機能が不徹底で、また展示室の運用計画を立てるのが簡単ではない状況にある。

さらに、ロビー等も美術館ならではの憩いや安らぎといった心地良さに乏しい。

タイル張りの外壁部分とともに、空調や照明、電気関係のシステム全体が老朽化し、適切な温湿度や照明の環境を安定的に維持することが困難な状態に陥っている。

参照【資料 - 8 「都道府県立美術館の面積」】

【資料 - 9 「福岡県立美術館の特質」】

#### （イ）周辺環境の問題

福岡県立美術館が所在する天神地区は、福岡県のみならず九州最大の人や情報及び商業の集積地である。しかし近年、天神地区における人の流れが南方向及び西方向に移動したため、福岡県立美術館の位置する北天神への人の流れが減少している。天神における人の賑わいから遠くなったこともあって、福岡県立美術館の周辺環境について来館者等に良い印象を与えていない。

参照【資料 - 9 「福岡県立美術館の特質」】

#### （ウ）人的資源の不足

長期的な展覧会の準備や研究に余裕がないなど、学芸及び教育普及等に関わる専門スタッフが必ずしも十分とはいえない。

また、展覧会やイベント等に限定して活動する短期間のボランティアについては導入を試みているが、常態的に美術館活動に関わるボラ

ンティアについては、その育成に関わる美術館スタッフや活動に必要なスペースが不足しているため、導入が進んでいない。

さらには、福岡県立美術館の活動を応援・支援する会員組織も未整備である。

#### (エ) 入館者数の相対的な低迷

過去15年の年間入館者を見ると、年度により上下に変動しながらも減少傾向を示している。

また、美術館に足を運ぶ頻度が高い県民であっても、福岡県立美術館に来館する頻度は必ずしも高くない。県内の美術館や福岡市博物館や九州国立博物館等の活動により、県内における美術館・博物館の総入館者数に対する福岡県立美術館の入館者数の割合が低下し、相対的に低迷状態に陥っている。

参照【資料 - 10「福岡県立美術館の年度別入館者数と来館頻度」】

#### (2) 福岡県立美術館の貢献

現在の福岡県立美術館は、上記のような課題があるとはいえ、県立の教育機関として、福岡県文化会館時代から、福岡県の文化芸術の発展や振興に対して、以下のような貢献を果たしてきている。

#### (ア) 県民の創作活動の発表の場である福岡県美術展覧会（県展）の開催

昭和15年に始まった福岡県展は、平成20年に64回展を迎え、長い歴史を誇っている。福岡県立美術館は、その前身である福岡県文化会館の開館と同時に県展の会場と実務的な運営を受け持ち、今日に至っている。近年では、3,500人前後の出品者数と、4,000点を超える出品数を数えるほどに多数の県民が参加しており、全国有数の規模を有している。

参照【資料 - 4「主な県の美術公募展（県展）の状況」】

#### (イ) 福岡県の美術を先取的に紹介する展覧会の開催

福岡県文化会館の時代から今日まで、古賀春江や児島善三郎、富田溪仙など、福岡県出身の美術史上著名な画家の全貌を初めて紹介する

企画展や、「イメージの風土学」や「日本の絢」、  
「生活の〈かたち〉 豊田勝秋のあゆみに見る昭和の工芸」、  
「菊畑茂久馬と〈物〉語るオブジェ」など、独自の視点からの企画展を開催してきた。

こうした企画展を通して、これまで明確になっていなかった福岡県の美術事象を解明するとともに、その成果を広く県民に紹介してきている。

参照【資料 - 1 1 「福岡県立美術館の主な展覧会」】

#### (ウ) 国内外の優れた作品を紹介する展覧会の開催

県内初の本格的な展覧会場であった福岡県文化会館は、昭和40年に58万人の入場者を集めた「ツタンカーメン展」をはじめ、ルノワールやセザンヌ、ピカソなどの名品を東京、京都に続いて公開する展覧会場として、福岡県のみならず九州の美術鑑賞の拠点としての役割を果たした。

福岡県立美術館となってからは、ダリやシャガール、佐伯祐三などの国内外の名品を紹介するとともに、「アメリカの時代展」や「戦後文化の軌跡展」、「大妖怪展」などテーマ性のある展覧会も開催した。

参照【資料 - 1 1 「福岡県立美術館の主な展覧会」】

#### (エ) 地域住民の参画を伴った移動美術館展の開催

平成7年度から、地域の文化施設で福岡県立美術館の収蔵作品を公開する移動美術館展を開催している。身近な場所で気軽に美術に親しむことができることから、美術鑑賞の貴重な機会となっている。

平成18年度からは、鑑賞やイベントのサポーターとして活躍するボランティアを開催地域で募集し、地域住民と協働で展覧会を運営するとともに、学校とも連携することで、子どもたちの美術鑑賞の場もなっている。

参照【資料 - 1 2 「福岡県立美術館の移動美術館展」】

参照【資料 - 1 3 「福岡県立美術館の「展覧会」における  
児童生徒等の観覧状況」】

#### (オ) 家族で美術に親しむ展覧会の開催

平成11年度から、子どもから大人まで幅広い年代の県民が、美術を楽しみながら味わう「アートにであう夏」シリーズを開催している。

簡単なワークショップ（参加体験型のグループ活動）やクイズなどを盛り込み、さらにサポーターによる鑑賞案内などを通して、特に幼児や小中学生が家族とともに美術に親しむ機会となっている。

参照【資料 - 1 1 「福岡県立美術館の主な展覧会」】

参照【資料 - 1 3 「福岡県立美術館の「展覧会」における  
児童生徒等の観覧状況】

#### （カ）先進的な作品を発表する場の定期的な提供

福岡県内でいま起こりつつある新しい美術の動きを紹介する「アートの現場」シリーズを、作家と共同主催の形式で、平成10年から毎年開催している。

まだ評価の定まっていない若手作家に、長期間の発表会場を提供するとともに、その開催情報を全国に発信することで、福岡県の新しい美術活動を支援している。

参照【資料 - 1 1 「福岡県立美術館の主な展覧会」】

#### （キ）作品発表の場として展示室の提供

福岡県文化会館の時代から今日まで、県内の個人やグループはもとより全国規模の美術団体に対して、創作活動の成果を発表する場所として、展示室を提供している。また、学校や教育関係団体等に対しても展示室を提供することにより、児童生徒や大学生等の図画工作や美術の日頃の研鑽の成果を発表する場として、教育的な役割を果たしてきている。

参照【資料 - 1 4 「福岡県立美術館の展示室の提供状況】

#### （ク）福岡県の美術に関わる独自コレクションの形成

福岡県立美術館は、福岡県文化会館の時代以来、江戸時代以降から現代にまでわたる日本画や洋画、彫刻、工芸等の作品を、合計2,380件（平成18年度末現在）収集してきた。

それらのなかには、坂本繁二郎「能面」や古賀春江「窓」、富田溪仙「沈竈・容膝」など、福岡県出身作家の代表的作品が多く含まれている。

その他にも、まとまったコレクション群として価値あるものも多い。



江戸時代に黒田藩御用絵師を務めた尾形家で守り継がれた「尾形家絵画資料」(福岡県指定文化財)は、当時の絵師の様相や、亡失した名画の手がかりを与える資料として重用されている資料群である。九州古陶磁コレクション群は、柿右衛門等の九州各窯の名品とともに、廃窯となった<sup>でんこう あきづま</sup>田香や朝妻など県内の古窯の作品も含んでおり、陶芸王国・九州の全貌をうかがい知ることができる。

また、久留米絃や陶芸等における近代以降の工芸作家の作品から成る福岡県近代工芸コレクション群や、孤高の画家として近年全国的に熱烈な愛好者を増やしている高島野十郎の作品群などがある。

これらはいずれも、他の美術館では、その全体像を見ることができないコレクション群である。

参照【資料 - 1 5 「福岡県立美術館の収蔵品及び資料」】

#### (ケ) 美術資料や図書類の蓄積と公開

福岡県文化会館の時代から今日まで、展覧会や収蔵品に関連した諸資料を蓄積してきた。それらは書簡や写真をはじめ、新聞や雑誌の記事など多方面にわたり、作家や作品等を詳細に知る上での貴重な資料となっている。これらは、県内外の美術館の展覧会活動や調査研究においても活用されている。

また、美術図書室においては、美術関連の図書や雑誌及び全国の美術館等が発行した展覧会図録を収集している。それらを公開し、美術愛好家や教員、制作者、生徒・学生等の研究や学習に供している。

参照【資料 - 1 5 「福岡県立美術館の収蔵品及び資料」】

### 3 新・福岡県立美術館の必要性

上記「福岡県立美術館を巡る状況」及び「福岡県立美術館の現状」を踏まえ、以下の観点から新しい福岡県立美術館が必要である。

#### (1) 「県立」の美術館としての必要性

福岡県全体の文化芸術の振興のために、これまで福岡県立美術館が行ってきた県立の教育機関としての役割を、さらに発展・拡張させていく美術館が必要である。

(ア) 福岡県全体の広域的な美術振興のために必要である

県内全域を対象とした美術振興の役割を果たすことができるのは、福岡県立美術館のみである。

県内各地に美術館が設置されているとはいえ、南筑後地域や京築地域など、身近な場所で美術に接する機会が乏しい地域がある。そこで、子どもたちを含めて県民が等しく美術と触れあうことができるように、学校や地域住民とも連携しながら、県展や移動美術館展の開催、また美術教育への支援などを積極的に行う必要がある。

これらの活動によって美術に親しむ人々の裾野を広げ、県全体の美術振興を図ることが求められている。

(イ) 県民の文化芸術活動の拠点として必要である

県民の美術に対する関心は高く、また創作活動やボランティアなどの活動を行う県民は多くなってきている。県民の文化芸術分野におけるこうした意欲の高まりに応えるために、鑑賞のみならず、創作活動や文化芸術分野での社会貢献活動などに関わる人の育成や支援を行う拠点として整備する必要がある。さらには、県内の美術館の活動を支援する美術館ネットワークの拠点としての役割も求められている。

(ウ) 福岡県の文化芸術の財産を継承し発展させる必要がある

福岡県立美術館の独自コレクションや資料は、福岡県の貴重な文化芸術の財産であり、文化をとおした福岡県のアイデンティティを県内外に示す大きな役割を担っている。福岡県としてこの文化的財産を後世に着実に伝えるとともに、さらに未来に向けて活用・発展させることが求められている。

(2) 独自性と現代性を備えた美術館の必要性

県内の他の美術館にもない、新しい時代を見すえた次のような新しい活動を展開し、県民の創造性を幅広く引き出す美術館が必要である。

(ア) 美術表現の拡大に呼応した新しい活動を展開する

音楽やIT等と融合した作品やアニメーション、パフォーマンス(身体表現)など、美術表現のあり方が拡大し多様化している。また県内

でも実験的な作品やプロジェクトを発表する若手作家の活動も活発になっている。こうした国内外の美術の新しい動きや、先進的な美術の動向に呼応し、新しい分野へと活動を拡大することが求められる。

(イ) 福岡県の産業分野における創造性と連携した活動を展開する

デザインやファッション、建築など、生活に密着した美的表現が広く注目され、また芸術の先駆的な創造性をもつ社会的な価値も認識されるようになってきた。そこで、従来の美術の枠組みにとどまらず、産業分野での福岡県の特性に着目しながら、ものづくりから先端的なIT産業まで、産業における創造的活動と連動した美術館活動が求められる。

#### 4 福岡県立美術館の評価

以上述べてきたとおり、福岡県には、県内全域の美術振興のために「県立」の美術館が必要であり、さらにはそこに、県内の他の美術館には見られない独自性と現代性が兼ね備わっていることが求められている。

しかしながら、福岡県立美術館は、文化芸術の発展に一定の役割を果たしてきたとはいえ、施設等の制約が大きいため、こうした必要性に十分に対処できない状態にある。そこでこれらの必要性を満たしうる新たな理念を打ち立て、それを実現することのできる機能を備えた新しい福岡県立美術館を建設する必要があり、以下、新しい福岡県立美術館が目指すべき方向性について提言する。

## 第2 新・福岡県立美術館が目指す方向性

### 1 理念

#### 福岡県立美術館は、美術をめぐる「つながり」を創出する

前述のとおり、福岡県立美術館は、福岡県全体の美術振興のために、県立の教育機関としての役割をさらに発展・拡張させていくことが求められている。さらに、県内の他の美術館にはない独自性と、新しい時代を見すえた現代性を備えた美術館として、県民に美術の新鮮な体験を提供し、県民の創造性を幅広く引き出すことが期待されている。

そのため、新しい福岡県立美術館は、美術館としての根幹的な役割を果たしながら、美術館の建物空間にとどまらず県内各地へと活動範囲を広げていくとともに、従来の美術や美術館の枠組みを超えて、美術を幅広い分野や領域へと拡張していく。

このように美術館の活動を新たに展開していくために、「つなぐ」という理念を掲げる。

福岡県立美術館は、「つなぐ」という理念のもと、美術と日常生活や産業とのつながり、美術をめぐる福岡県と世界、あるいは過去と未来とのつながり、美術を介した多様な人と人のつながり、学びと楽しみや安らぎとのつながりなど、さまざまな「つながり」を創り出す。

それは、さまざまな「つながり」によって、美術に関わる人や創造や知などが縦横に行き交う状況を生み出し、福岡県立美術館がつねに県民に精神的な刺激と生きる活力を与える存在となることである。

福岡県立美術館は、「つなぐ」という理念を通して、県民ひとりひとりを未来に向けた夢と希望へとつなぐとともに、愛着と誇りある社会の実現に貢献する。

## 2 基本方針

「つなぐ」という理念を、次の3つの基本方針を通して実現していく。

### 基本方針 1

## 美術を 生活 とつなぐ

### 基本方針 2

## 美術を 世界 とつなぐ

### 基本方針 3

## 美術を 人 とつなぐ

### 基本方針 1 美術を生活とつなぐ

---

美術を人々の生活や産業活動などにつないで、福岡県の多様な創造の現場に関わることで、社会のなかで生きる美術館とする。

福岡県立美術館は、暮らしや生活との関連性のなかで美術をとらえ、衣食住といった日常生活から産業的なものづくりまで、さらには福祉や環境なども含めて、生活や社会のさまざまな分野における美術の可能性を探る。

そのために工芸やデザイン、都市計画や景観を含めた建築、ファッションなど暮らしや社会の営みのなかで生まれ、人々の生活を彩り、心を豊かにする表現や創造を美術館活動のなかに取り込む。

さらにこうした美術的な表現にとどまらず、鉱工業等によって日本の近代化を牽引してきた福岡県の歴史的な背景に着目し、ものづくりやITなど広く産業における今日の創造活動とも連携しながら、福岡県における創造の多様な現場に関わり、その活性化の一翼を担う。

また県内各地の独自の産業的な歴史や文化遺産、風土、伝統など地域の特色を、住民とともに探りながら美術活動を展開することで、地域の新たな創造や発見に寄与する。

## 基本方針 2 美術を世界とつなぐ

---

福岡県の美術の遺産や今日の創造を、時間や空間の広がりをつなぎ、世界史的な視野の中で、福岡県の美術を追求する。

福岡県立美術館は、福岡県の美術に立脚し、それを出発点にしながら世界へと視野を広げていく。

そのために福岡県の特徴ある美術を、単独的・孤立的に扱うのではなく、それが生み出されてきた歴史的・文化的・社会的な背景を探ることで、より広域的な文化圏や世界史的な視野のなかへと広げていく。そして郷土の美術を、より深くより広い次元から再構成し、その魅力を最大限に引き出す。さらには刻々と変化する世界各地の美術活動の最新の姿を紹介する。

また福岡県の過去の豊かな芸術の遺伝子を受け継ぎながら、いま福岡県で生まれようとしている新しい創作活動を多面的に支援し、世界に向けて、その情報や成果を発信していく。

### 基本方針 3 美術を人とつなぐ

---

創作や鑑賞のみならず、学びや出会い、交流など、人が美術とつながるさまざまな機会と場を設け、すべての県民が美術のもたらす魅力を実感できる環境を創出する。

福岡県立美術館は、創作や鑑賞、さらには学びや出会い、参画、支援など美術活動のさまざまな局面において、多彩な人々の連携や交流を創り出し、そこから新たな価値や活動が芽生える場となる。

そのために、美術の創造に関わる人たちを多面的に支援するとともに、ひとりひとりが美術に親しみ、美術を介して人と出会い、そこに共感と気づき、楽しみを発見する場や機会を創り出していく。また人々が技能と関心に応じて、美術館活動の運営や企画などに参画し、多様な人と交流できるように美術館を開放していく。

そして、子どもから老年へと至る人の成長や歩みに添って、つねに知性や感性を刺激し続ける存在となることで、福岡県立美術館は県民の生涯にわたっての精神的なパートナーとなることを目指す。

### 第3 新・福岡県立美術館が目指す方向性を実現する具体的提言

#### 1 求められる活動や機能

##### (1) 「県立」の美術館として必要な活動について

「県立」の美術館として、福岡県の文化芸術に対して福岡県立美術館が貢献してきた活動を引き継ぎながら、さらに以下のような活動をとおして「福岡県立美術館が目指す方向性」の実現を図ることが必要である。

福岡県美術展覧会（県展）の展示作品を、一堂に公開できる環境を整える。

県民が作品を公開するためのギャラリーの提供のほか、制作や展示、広報等にも専門的な助言や協力を行うなど、県民の創作活動を支援する。

地域にある既存の文化施設や近代化遺産の建造物等を活用しながら、地域の歴史や風土等に関連した美術作品の展示や美術イベント等を、地域の人々と協働して行う。

子どもたちを対象とした美術教室や展覧会の開催など、美術館独自の教育プログラムを行う。

子どもたちが日本や世界の美術を鑑賞し、理解するために、IT やデジタル・コンテンツ等を利用した教育プログラムを開発する。

学校教育の中で美術館の収蔵品を利用するための手引きや教材を作成したり、教員と連携しながら美術鑑賞や作品制作に関して研究する場を設けたりすることで、図画工作や美術の学習における補完的・支援的な役割を果たす。

展覧会等の内容に関連する有識者を迎えて、来館者と気軽に歓談するイベントを実施するとともに、県民が美術館を十分に活用する方法を学習する機会を設ける。



美術館へ来ることが困難な県民のために、病院や福祉施設などで展覧会やワークショップ（参加体験型のグループ活動）などを行う。

作品の作り手と受け手をつなぐコーディネーター（調整役）や、鑑賞の手助けや企画運営に関わるボランティアや NPO など、美術のさまざまな現場で活躍する人材の交流、研修及び活動の場を作る。

福岡県の美術に関する資料を収集公開する情報センター的な機能を整備することで、県内及び九州の美術館活動を支援する。

県内の美術館・博物館等との共同の展覧会やイベント、シンポジウム等を開催するとともに、県内の美術館・博物館等を横断した情報発信を行い、ミュージアム・ネットワークの拠点的活動を行う。

広域的な文化圏や歴史的な視野で福岡県ゆかりの美術を捉えなおすことで、説得力ある常設展活動を行うとともに、その視点で関連する作品を集めた魅力的な展覧会を開催する。

## （２）独自性と現代性を発揮するために必要な活動について

独自性と現代性を備えた美術館として、以下のような活動をとおして「福岡県立美術館が目指す方向性」の実現を図ることが必要である。

IT や音楽等と融合した作品やパフォーマンス（身体表現）など、世界の先端的な美術の展覧会を開催する。

福岡県で生まれつつある先進的な美術表現を紹介する展覧会を開催するとともに、その情報や成果をインターネット等で情報発信する。

先進的な創作活動に対して、制作場所や制作補助者などの開拓や紹介等の支援を行う。

工芸やデザイン、建築、ファッションなど日常生活や産業活動と結

びついた新たな分野の展覧会等を産業界の協力を得ながら開催する。

先端的な創作活動を行っている美術家やデザイナー、エンジニアなどが、意見や情報を交換し、共同のプロジェクトを行う場を設け、新たな福岡発の美術や知的産業創出の支援を行う。

### (3) 美術館の魅力を高めるために必要な活動について

「福岡県立美術館が目指す方向性」の実現においては、美術館の魅力を高め、県民に親しまれる美術館となるための以下のような活動も必要である。

音楽や演劇、文芸など幅広く文化芸術関連のイベントを、定期的で開催する。

周辺地域全体が文化芸術の中心となるように、近隣の商業施設や文化施設等と連携した事業を展開する。

身体障害者や高齢者等に配慮した設備を整えるとともに、細やかな案内やサービスを行う。

福岡県立美術館独自のミュージアム・グッズの開発を地元作家やデザイナー、企業等とも共同で行う。

展覧会の観覧の他、イベントやシンポジウム、交流や研修会等への参加においても県民が利用しやすいように、開館の時間帯については、活動内容に応じた弾力的な運用を行う。

### (4) 求められる機能について

上記の活動が可能となるように、美術館の根幹となる「収集保存」「研究・調査」「展示」「教育普及」の諸機能を充実させる必要がある。そのために、計画的な収集に努め、収集作品に応じた適切な収蔵スペースを確保するとともに、美術分野の拡大に呼応した展示スペースや創作活動スペース等を設けることが求められる。

さらに、上記の活動で示された「情報収集・提供」「支援」「交流」「サービス」といった側面についても、福岡県立美術館の特徴ある機能となるように、十分な設備や空間を整備することが望ましい。

なお、具体的な設備等の計画においては、運営方法や活動内容を踏まえ、さらには利用者の立場に十分配慮することが必要である。

## 2 求められる活動や機能を推進する体制

### (1) 多くの参画者を巻き込む推進体制について

福岡県立美術館は、単独の主体として上記の活動を行うのではなく、さまざまな団体や人々とのつながりと参画を組み込みながら、活動を推進していく必要がある。

そのために、他の美術館、美術関係団体、美術作家、デザイナー、アート系 NPO、他の芸術分野の専門家、学校、大学、福祉施設、文化施設、企業など、美術館にかかわる多様な団体・個人が、福岡県立美術館の活動への参画者や支援者となるように、情報交流や相互支援を積極的に進めることが求められる。

広く企業や県民に積極的にはたらきかけ、企業の寄付等による「基金」を設立して、新しい美術館活動や若手芸術家の活動への支援を求めることなども、福岡県立美術館への参画の一形態として検討すべきである。

### (2) 人材や組織について

#### (ア) 各分野の専門的な見識を備えた人材の配置

美術専門の学芸員のほかに、教育普及活動や作品保全の専門担当者、美術図書や資料の管理に従事する司書などの配置が必要である。

また、福岡県立美術館の活動に参画するさまざまな団体や個人の支援や交流を担うための人材の配置が必要である。

これらの専門的な人材の充実こそが、上述した美術館活動を推進する源であることを忘れてはならない。

#### (イ) 組織運営体制の整備

長期的かつ計画的に業務を遂行することができる体制を整えるとともに、業務に応じて臨機応変な対応が可能な組織運営形態であることが必要である。

#### (ウ) 指定管理者制度への対応

指定管理者制度については、効率的な運営という利点がある一方、一定期間ごとに指定管理者が入れ替わる可能性があるため、美術館の根幹的な機能の継続性が軽視される恐れがある。

経済的効率性のみからの検討ではなく、福岡県立美術館としての使命を十分に達成できるかどうかを判断基準として、さらに既導入館の状況等を参考にしながら、施設形態等も踏まえて慎重に検討する必要がある。

#### (3) 美術館評価について

理念や基本方針等に示された果たすべき役割を、時代や社会の変化に対応しながら、福岡県立美術館は県民に対して遂行する責務を負っている。そこで、福岡県立美術館がみずからの使命に適った業務を着実にやっているかどうかを検証するために、自己点検評価を行うとともに、外部評価機関を設置し、第三者による評価を定期的に行う必要がある。

### 3 設置や建築手法に関する検討

#### (1) 立地について

福岡県立美術館の立地場所としては、交通至便で人が集まりやすい地域が望ましい。その理由は、県内各地からの集客が見込まれ、他の施設等との複合的効果により、魅力が倍增することが期待できるからである。

#### (2) 設置について

福岡県立美術館が交通至便で、人が集まりやすい地域に設置される場合、次のような観点からの検討が必要である。

### (ア) 福岡県全域の美術振興のための検討

福岡県立美術館は、県内全域に対して、美術振興の役割を果たしていく必要がある。

そのため、美術館が未整備な市町村等において、地域のギャラリー的な施設や近代化遺産の建造物等を利用して、地域の人々と協働しながらアート・プログラムを実施するなどの支援が必要である。

特に、南筑後地域においては、地域で開催される美術公募展の出品者数が多いなど、住民の文化芸術に対する意欲が高いにもかかわらず、そのような意欲に応える施設が未整備であることから、福岡県立美術館の機能を補完するような施設を整備する必要がある。

### (イ) 機能充実のための検討

各機能の充実を図るためには、福岡県立美術館に求められるすべての機能を一つの建造物に組み込むのではなく、機能を分散させることも考えられる。

## (3) 建築手法について

### (ア) 新築又はリノベーション

美術館を建築する場合、完全に新しく建築する方法と、既存の建築物をリノベーション（修理、改築。歴史的建造物の外装や設備を修理して更新するなど、建替えではなく、建物の大幅な又は部分的な改修をすること。）する方法とが考えられる。

新築においては、なによりも、福岡県立美術館に求められる理念や基本方針を遂行するのに必要な機能を十分に満たした施設とすることが出来る利点は大きい。また建築物そのものが福岡県立美術館が生まれ変わったことを印象づけることができる。

一方、リノベーションの場合、対象となる建造物が歴史的・文化的価値を有するものであることが望ましく、その建造物の歴史的背景等を生かしながら、美術館としての新しい機能を付加することが必要である。ただし、建造物の構造等によっては、必要な機能を十分に満たすことができない可能性もある。

なお、建設の際には、周囲の景観全体にとっても意義あるデザインとなることが望ましい。

#### (イ) PFI 方式による建設

近年、公共施設の整備において資金調達や建設、管理運営を民間にゆだね、その施設が提供するサービスを公共団体が買い取る PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）方式が用いられることがある。

PFI 方式については、事業を実施する目的会社が経営破綻に陥ったり、運営コストが当初見込みよりも上回ったため、巨額の赤字が生じたりするなどの問題も生じている。しかし、PFI 方式を採用することにより、直接に施設を建設し管理運営するよりも低コストに押さえられ、また建設から管理運営に至るまで、民間のノウハウが連続的に生かされるというメリットも挙げられている。

PFI 方式については、実施方法とともに県民に提供するサービスの内容やその質の程度等を研究調査して、前向きに検討する必要がある。

## おわりに

---

この報告において、福岡県立美術館を巡る諸状況や、福岡県立美術館の現状を分析し、そこから福岡県における県立美術館の必要性を示し、新しい福岡県立美術館が目指すべき方向性ととも、それを実現するための具体的な活動や体制、設置等について提言を行った。

私たちは、この報告の内容がすみやかに実行に移されることを願っている。

福岡県立美術館将来構想検討委員会での審議を終えるにあたり、新しい福岡県立美術館の実現に向けて、次の2点を特に付言しておく。

まず、厳しい県財政に対する県民の危惧の声を踏まえ、建築に係わる経費のみならず、開館後の運営経費についても、十分な検討を行い、効果的かつ安定的な方策をとることが必要であるという点である。

次に、提言された内容のうち、現在の福岡県立美術館において取り組むことのできるものは、人事、予算、組織の体制を整えつつ、積極的に行うことが望まれるという点である。新・福岡県立美術館にむけた現在の取組の姿勢と活動こそが、福岡県立美術館の建設に対して、県民の期待と信頼を得る最善の道だからである。

新・福岡県立美術館が、この報告に沿ってその機能や活動を十全に発揮したとき、福岡県のみならず、日本の文化芸術の振興や発展にとっても、大きな貢献を果たすであろうことを私たちは確信している。





## 資料編

---

- 資料 - 1 「福岡県内の主な美術館」
- 資料 - 2 「関心のある文化芸術分野（福岡県）」
- 資料 - 3 「文化芸術関連の行動率」
- 資料 - 4 「主な県の美術公募展（県展）の状況」
- 資料 - 5 「福岡県内の美術公募展の状況」
- 資料 - 6 「福岡県におけるアート系NPO法人数」
- 資料 - 7 「文化芸術における関心のある支援活動（福岡県）」
- 資料 - 8 「都道府県立美術館の面積」
- 資料 - 9 「福岡県立美術館の特質」
- 資料 - 10 「福岡県立美術館の年度別入館者数と来館頻度」
- 資料 - 11 「福岡県立美術館の主な展覧会」
- 資料 - 12 「福岡県立美術館の移動美術館展」
- 資料 - 13 「福岡県立美術館の「展覧会」における児童生徒等の観覧状況」
- 資料 - 14 「福岡県立美術館の展示室の提供状況」
- 資料 - 15 「福岡県立美術館の収蔵品及び資料」



## 福岡県内の主な美術館

美術館名	設置	場所	開館年	面積 (㎡)			
				敷地面積	延べ床面積	展示室面積	収蔵庫面積
福岡県立美術館	県立	福岡市	昭和39年 昭和60年改装	5,646	6,929	1,404	291
石橋美術館	私立 財団法人	久留米市	昭和31年	67,750	2,970	1,618	66
石橋美術館 (別館)			平成8年		1,070	275	34
北九州市立美術館	市立	北九州市	昭和49年	113,000	10,664	2,961	1,087
北九州市立美術館 (分館)			平成15年	複合施設	1,657	766	
福岡市美術館	市立	福岡市	昭和54年	25,866	14,526	4,184	1,382
田川市美術館	市立	田川市	平成3年	7,713	1,991	648	114
嘉麻市立織田廣喜美術館	市立	嘉麻市	平成8年	複合施設	2,682	864	158
福岡アジア美術館	市立	福岡市	平成11年	複合施設	9,101	2,485	404
出光美術館	私立 財団法人	北九州市	平成12年	2,373	1,356	1,088	104
直方谷尾美術館	市立	直方市	平成13年	3,114	2,533	736	727
九州産業大学美術館	私立 学校法人	福岡市	平成14年	複合施設	1,068	858	74

来館者数が、年間平均1万人を超える美術館に限った。

直方谷尾美術館の面積は別館、収蔵庫棟を含む。

## 【参考】

福岡市博物館	市立	福岡市	平成2年	50,648	16,728	4,835	2,387
九州国立博物館	国立 独立行政法人	太宰府市	平成17年	160,715	30,675	5,444	4,518



福岡県立美術館（県立：福岡市）

石橋美術館（私立：久留米市）

北九州市立美術館（市立：北九州市）

北九州市立美術館分館（市立：北九州市）

福岡市美術館（市立：福岡市）

田川市美術館（市立：田川市）

嘉麻市立織田廣喜美術館（市立：嘉麻市）

福岡アジア美術館（市立：福岡市）

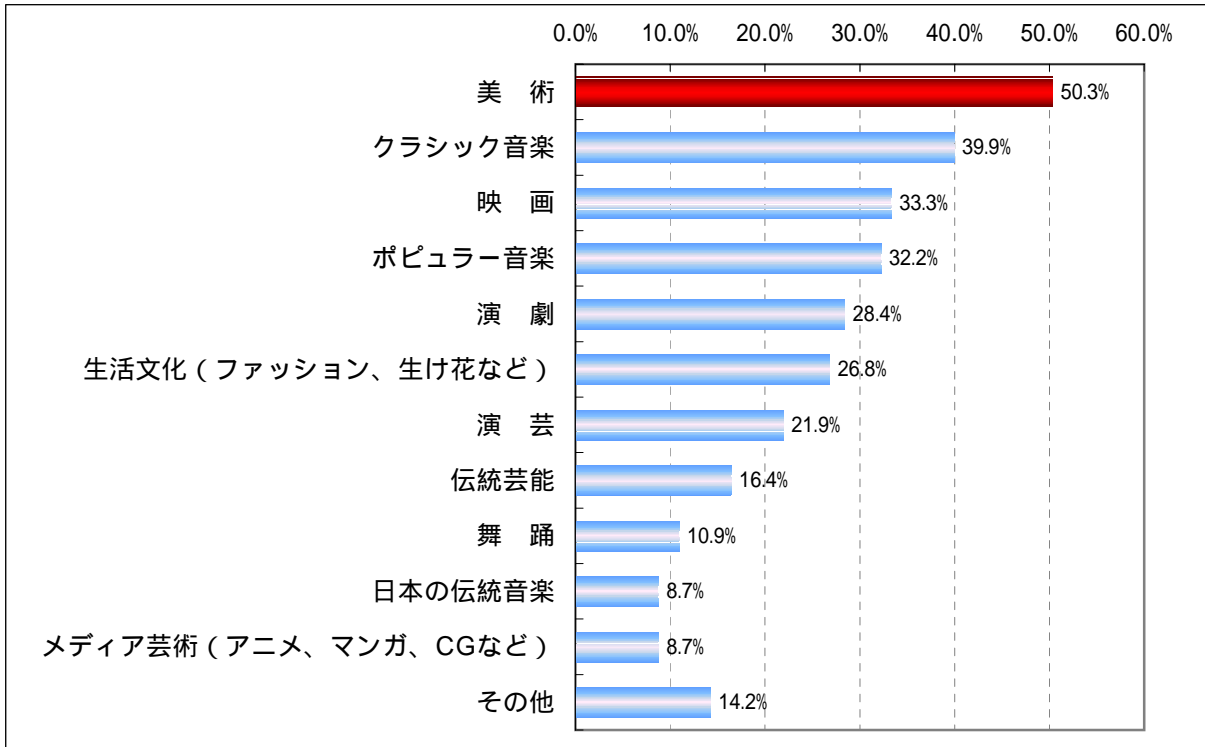
出光美術館（私立：北九州市）

直方谷尾美術館（市立：直方市）

九州産業大学美術館（私立：福岡市）

（平成 20 年 福岡県教育委員会 調べ）

関心のある文化芸術分野(福岡県)



回答者数: 183 (複数回答可、選択は3つまで)

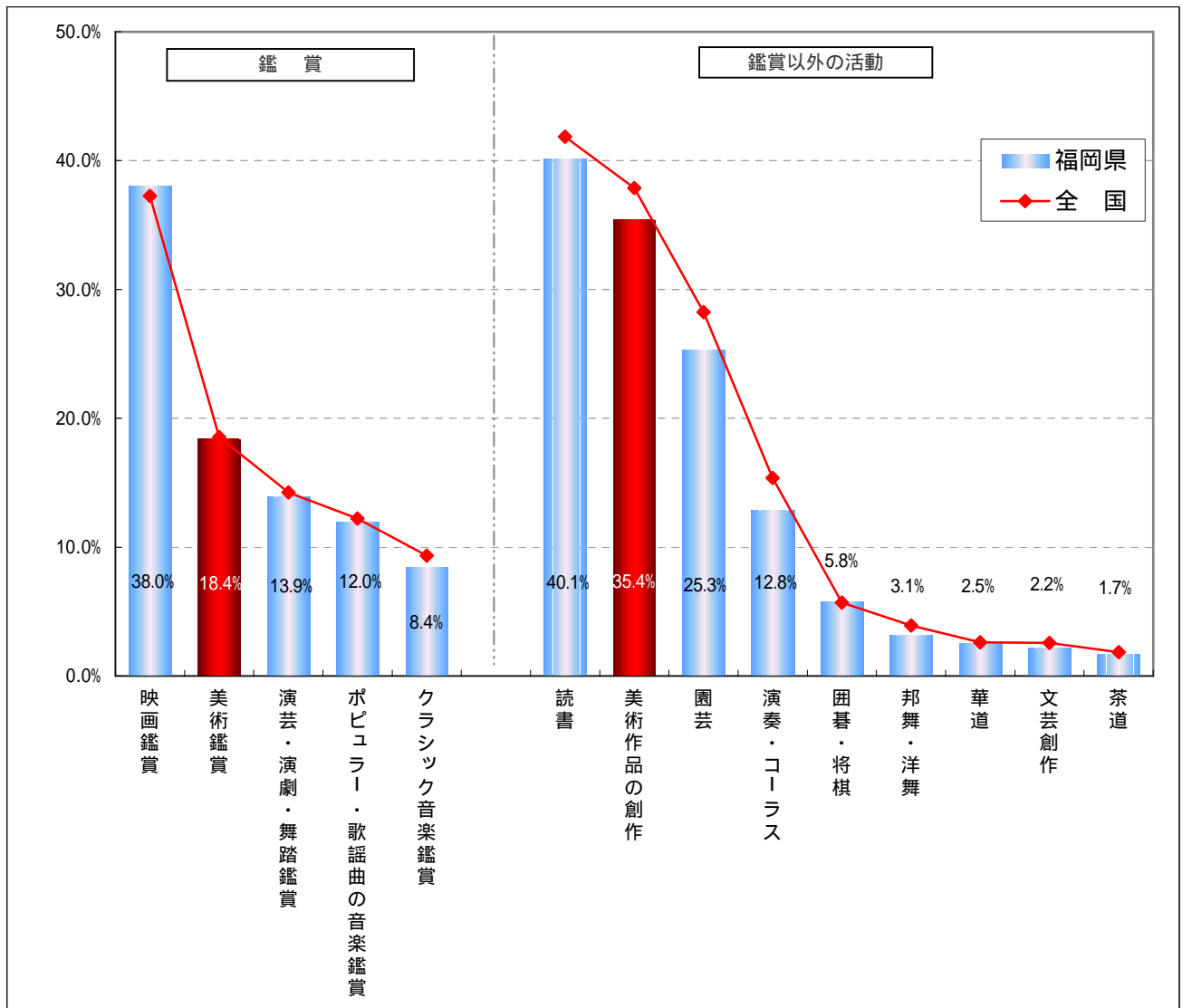
	回答数		回答数
美術	92 50.3%	伝統芸能	30 16.4%
クラシック音楽	73 39.9%	舞踊	20 10.9%
映画	61 33.3%	日本の伝統音楽	16 8.7%
ポピュラー音楽	59 32.2%	メディア芸術 (アニメ、マンガ、CGなど)	16 8.7%
演劇	52 28.4%	その他	26 14.2%
生活文化 (ファッション、生け花など)	49 26.8%	無回答	1 0.5%
演芸	40 21.9%		

パーセンテージは、回答者数に対する各属性の割合。

(平成15年 福岡県県政モニターアンケート)

【資料 - 3】

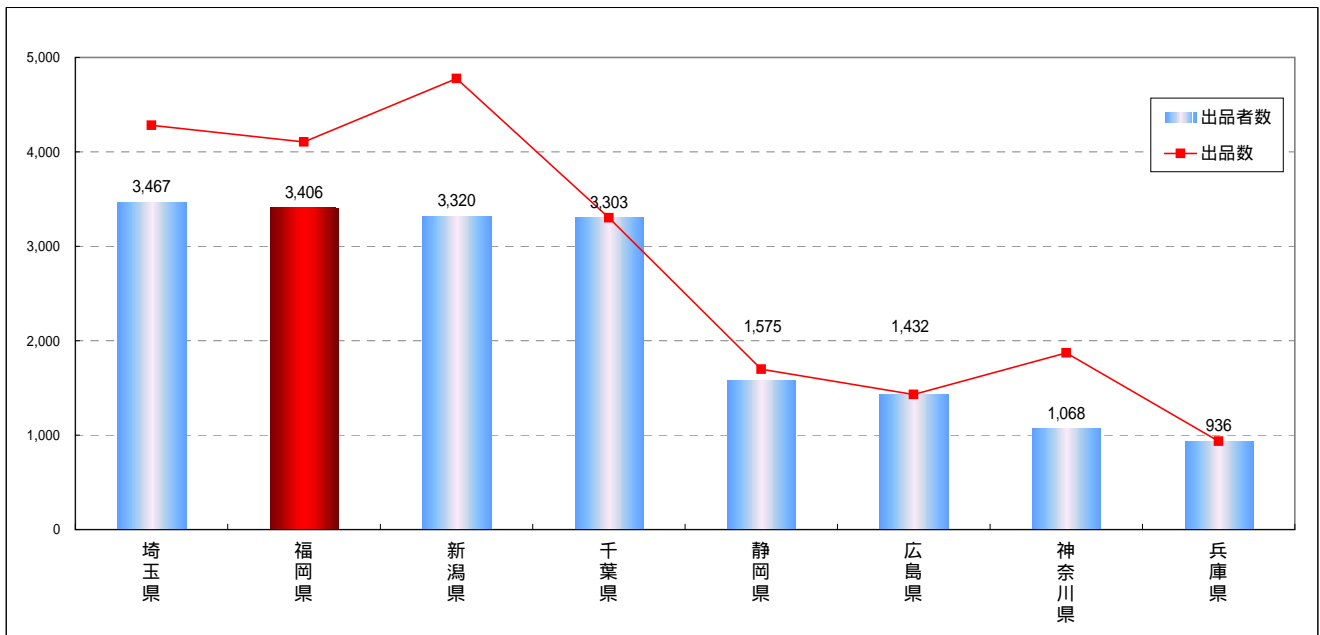
文化芸術関連の行動率



鑑賞についてはTV、DVD、CD等の鑑賞を除く。

(『平成18年度総務省社会生活基本調査』より集計)

主な県の美術公募展(県展)の状況 (平成18年度実施分)



	出品者数 (人)	出品数 (点)	入選数 (点)	入選率	主催団体	会場	出品部門	出品者
福岡県	3,406	4,104	1,387	33.8%	福岡県美術展覧会実行委員会 (福岡県立美術館、福岡県美術協会、朝日新聞社)	福岡県立美術館	日本画、洋画、彫刻、 工芸、書、写真、 グラフィックデザイン	県内在住・在勤・ 在学、 中学生以下不可
埼玉県	3,467	4,280	1,769	41.3%	埼玉県、埼玉県教育委員会、埼玉県美術家協会、 さいたま芸術文化祭埼玉県実行委員会	埼玉県立近代美術館	日本画、洋画、彫刻、 工芸、書、写真	県内在住・在勤・ 在学、 中学生以下不可
千葉県	3,303	3,303	1,772	53.6%	千葉県、千葉県美術会	千葉県立美術館	日本画、洋画、彫刻、 工芸、書道	県内在住・出身、 高校生以下不可
神奈川県	1,068	1,871	568	30.4%	神奈川県、神奈川県美術展委員会、神奈川県民ホール	神奈川県民ホール ギャラリー	平面立体、工芸、書、 写真	県内在住・在勤・ 在学・出身
新潟県	3,320	4,775	1,054	22.1%	新潟県、新潟県教育委員会、新潟日报社、 新潟市、長岡市、上越市教育委員会、 村上市教育委員会、佐渡市教育委員会	県民ギャラリー、 新潟市美術館、 新潟大和、新潟三越	日本画、洋画、版画、彫刻、 工芸、書道、写真	制限無し
静岡県	1,575	1,698	683	40.2%	静岡県教育委員会、静岡県立美術館、静岡県文化協会	静岡県立美術館、 クリエイト浜松	平面、立体、書道、写真	県内在住・在勤・ 出身、 中学生以下不可
兵庫県	936	936	198	21.2%	兵庫県、兵庫県立美術館、神戸新聞社、 財団法人兵庫県芸術文化協会	兵庫県立美術館王子分館	日本画、洋画、彫刻、 工芸、書、写真、デザイン	県内在住・在勤・ 在学、 16歳以上
広島県	1,432	1,432	508	35.5%	広島県教育委員会	広島県立美術館	絵画系、彫塑系、工芸系、 書系、写真系、デザイン系	県内在住・在勤・ 在学

政令指定都市または特別区を有する都道府県に限った。

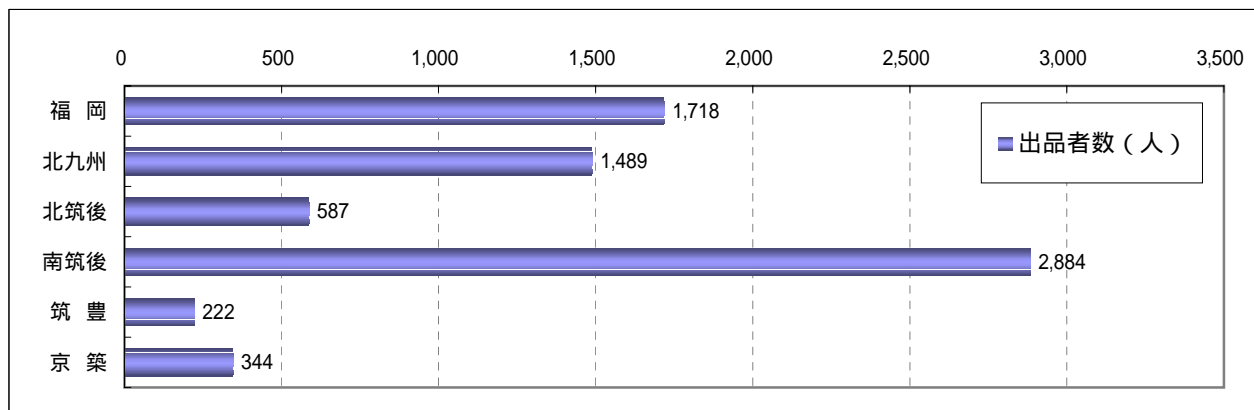
本調査における「美術公募展」とは 都道府県が主催し、都道府県民に広く美術作品を募集している  
募集作品の出品部門が複数である 審査によって応募作品の入選・落選が決定される  
上記の3つの条件をすべて満たす美術展をいう。

北海道、宮城県、東京都、愛知県、京都府、大阪府は平成18年度においては上記の条件での美術公募展を実施していない。

(平成20年 福岡県教育委員会 調べ)

【資料 - 5】

福岡県内の美術公募展の状況（平成18年度実施分）



	市町村名	事業名	出品者数 (人)	出品数 (点)	入選数 (点)
福岡	福岡市	福岡市美術展	1,171	1,372	693
	大野城市	大野城まどかびあ総合美術展	327	417	114
	糟屋地区 古賀市 宇美町 篠栗町 志免町 須恵町 新宮町 久山町 粕屋町	糟屋地区美術展	220	220	51
北九州	北九州市	北九州芸術祭総合美術展	1,241		363
	中間市	中間市美術展	131	182	39
	鞍手町	鞍手美術展	117	188	28
北筑後	久留米市	久留米市総合美術展	412	503	319
	朝倉市	朝倉市甘木美術展	175	175	31
南筑後	大牟田市	大牟田美術展	339	371	62
	柳川市	柳川市総合美術展	324	420	229
	八女市	八女文化連盟総合美術展	290	321	59
	筑後市	筑後市美術展	539	621	433
	大川市	大川市総合美術展	366	461	229
	みやま市	みやま市総合美術公募展	1,026	1,026	293
筑豊	飯塚市	飯塚総合文化祭公募美術展	105	114	36
	田川市	田川美術展	117	119	110
京築	行橋市	行橋市美術展覧会	212	217	35
	豊前市	豊前市美術展	132	204	107

本調査における「美術公募展」とは、市町村が主催・共催等を行い、市町村民に広く美術作品を募集している 募集作品の出品部門が複数である 審査によって応募作品の入選・落選が決定される 上記の3つの条件をすべて満たす美術展をいう。

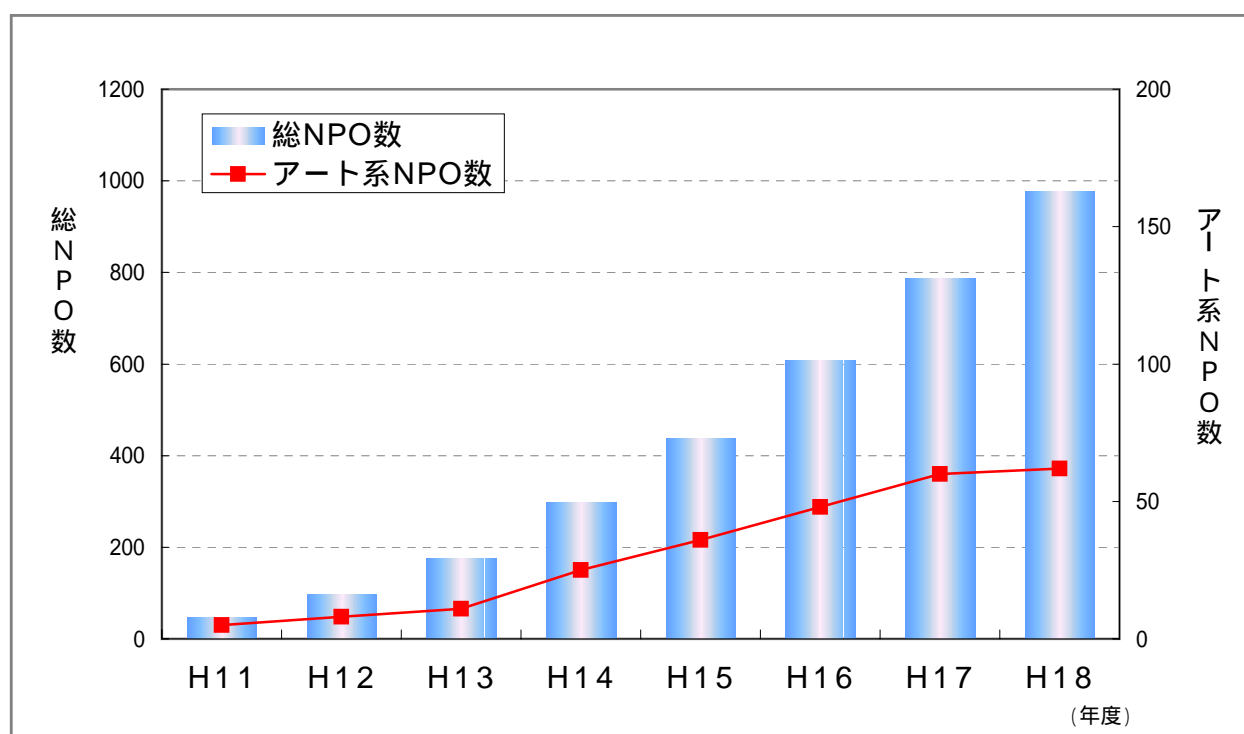
大野城市はピエナーレ方式(隔年)のためH17年度のデータを、みやま市は市町村合併のため第1回であるH19年度のデータを使用。

	地域人口(人) H18.12.1現在	出品者数	地域人口に対する出品率
福岡	2,345,637	1,718	0.07%
北九州	1,249,279	1,489	0.12%
北筑後	502,363	587	0.12%
南筑後	439,481	2,884	0.66%
筑豊	331,616	222	0.07%
京築	190,622	344	0.18%
県全体	5,058,998	7,244	0.14%

(平成20年 福岡県教育委員会 調べ)



## 福岡県におけるアート系NPO法人数



法人設立年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
総NPO数	47	97	175	297	438	607	787	977
アート系NPO数	5	8	11	25	36	48	60	62

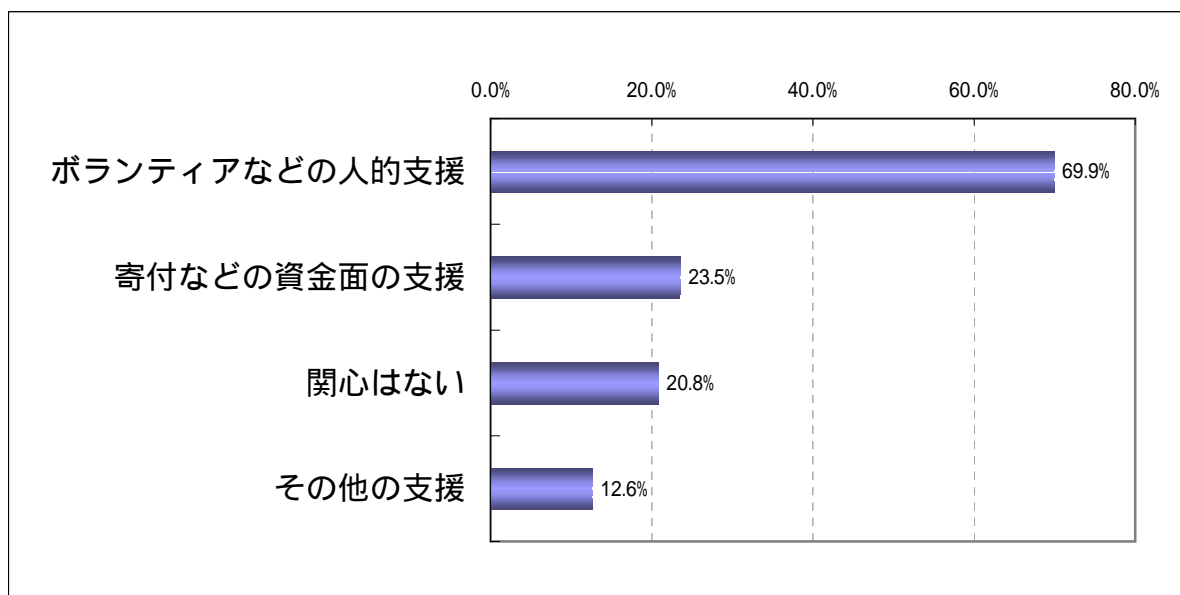
団体数は累計で表した。

アート系NPOとは「学術・芸術・文化・スポーツ」を定款に掲げるNPOのうち、アートを主たる活動分野とするNPO法人。  
H18年度アート系NPO数はH18年9月までのデータである。

(福岡県NPO・ボランティアセンター「認証団体情報」及び  
NPO法人アートNPOリンク「アートNPOデータベース2006」より集計)

【資料 - 7】

文化芸術における関心のある支援活動(福岡県)



文化芸術の支援活動に関心があるかどうか、またどのような支援活動に関心があるかを聞いた。

回答者数：183 (複数回答可)

	回答数
ボランティアなどの人的支援	128
	69.9%
寄付などの資金面の支援	43
	23.5%
関心はない	38
	20.8%
その他の支援	23
	12.6%
無回答	1
	0.5%

パーセンテージは、回答者数に対する各属性の割合。

(平成15年 福岡県県政モニターアンケート)

## 都道府県立美術館の面積

館名	開館年	面積 (㎡)				指定管理者 制度導入 (一部を含む) の有無
		敷地面積	延べ床面積	展示室面積	収蔵庫面積	
福岡県立美術館	昭和39年 (S60年改装)	5,646	6,929	1,404	291	無
政令指定都市等を有する都道府県の 都道府県立美術館の平均		32,092	16,131	4,441	1,128	

## 【政令指定都市、特別区を有する都道府県の都道府県立美術館】

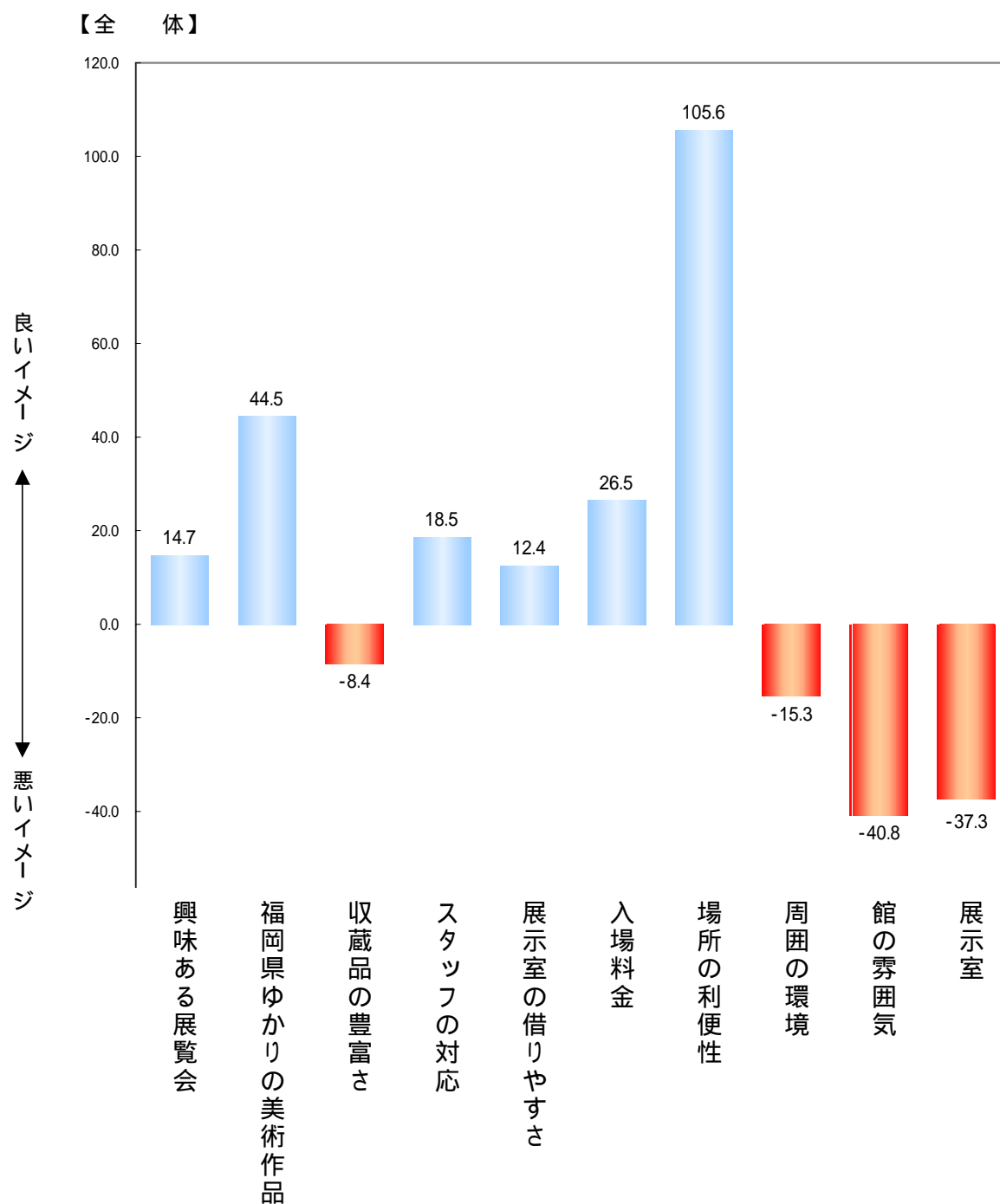
館名	開館年	面積 (㎡)				指定管理者 制度導入 (一部を含む) の有無
		敷地面積	延べ床面積	展示室面積	収蔵庫面積	
北海道立近代美術館	昭和52年	19,153	9,160	2,871	810	無
宮城県美術館	昭和56年	34,532	15,203	3,551	998	無
埼玉県立近代美術館	昭和57年	46,457	8,640	2,709	617	無
千葉県立美術館	昭和49年	33,058	10,664	4,296	772	無
東京都現代美術館	平成7年	23,780	33,515	7,400	1,287	有
東京都美術館	大正15年 (S50年改装)	16,520	31,984	12,195	770	有
神奈川県立近代美術館(葉山館)	平成15年	14,972	7,111	1,297	998	無 維持管理 はPFI
新潟県立近代美術館	平成5年	33,800	10,723	2,693	1,746	無
静岡県立美術館	昭和61年	132,246	12,262	4,251	1,066	無
愛知県美術館	平成4年	複18,173	複合施設	5,993	2,095	無
兵庫県立美術館	平成14年	19,000	27,461	4,985	1,641	無
広島県立美術館	昭和43年 (H8年改装)	5,943	19,926	4,093	1,580	無

別館や分館にあたる館を除く。

京都府、大阪府は府立美術館を有していない。

(『平成19年度都道府県立美術館基本調査』及び平成20年福岡県教育委員会調べ)

## 福岡県立美術館の特質



一般県民、展覧会観覧者、福岡県内創作活動者、福岡県内教職員を対象にしたアンケート調査の集計。

### 調査の対象

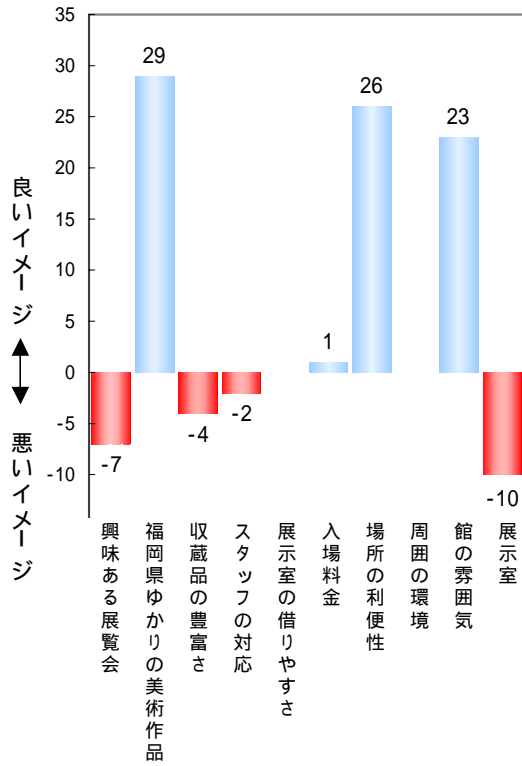
一般県民：平成18年実施「県政モニターアンケート」回答者。

展覧会観覧者：平成19年福岡県立美術館で開催された「華麗なるアール・ヌーヴォー、アール・デコの世界」展、「モーリス・ユトリロ」展でのアンケート回答者。

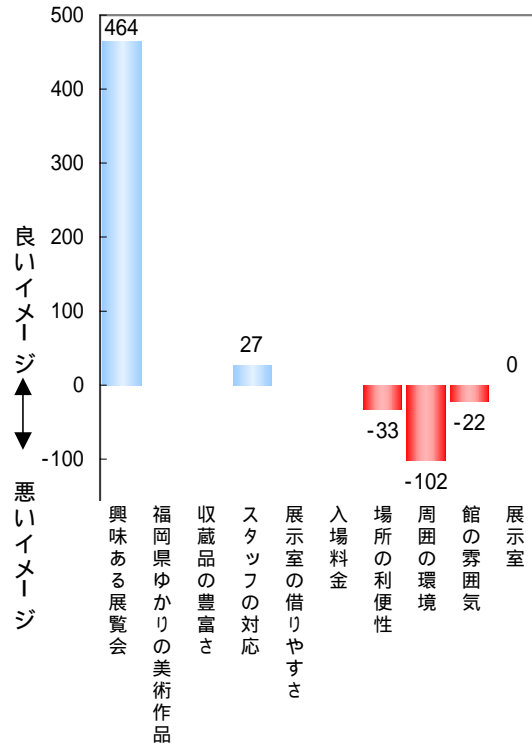
福岡県内創作活動者：平成19年実施「美術活動に関するアンケート」回答者。（平成19年度「第63回福岡県美術展覧会」出品者から抽出。）

福岡県内教職員：平成19年実施「『学校と美術館』についてのアンケート」回答者。（福岡県内の小、中、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の図画工作、美術科担当教員から抽出。）

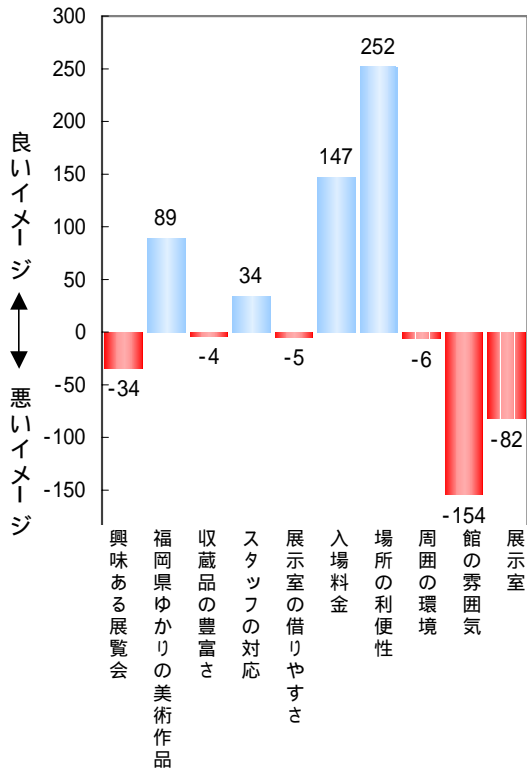
アンケート対象者：一般県民



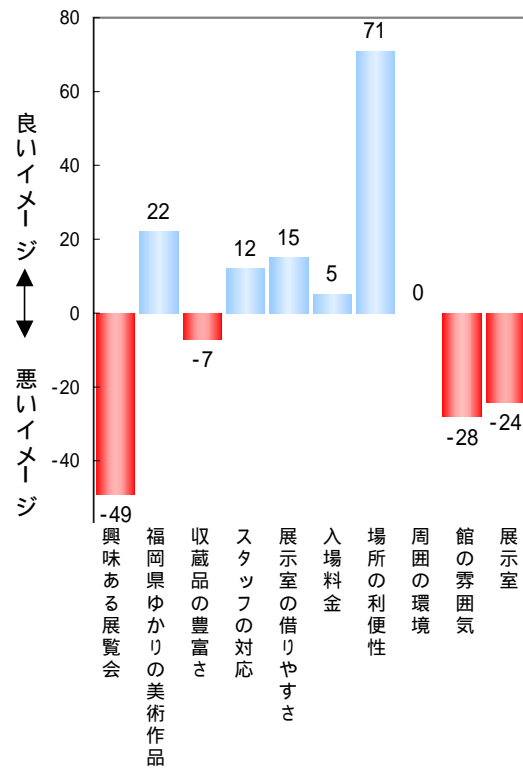
アンケート対象者：展覧会観覧者



アンケート対象者：福岡県内創作活動者



アンケート対象者：福岡県内教職員



### 【福岡県立美術館の良い点】

	一般県民		展覧会観覧者		福岡県内創作活動者		福岡県内教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
回答者数	241		707		678		114	
興味のある展覧会が多い	38	15.8%	501	70.9%	127	18.7%	12	10.5%
福岡県ゆかりの美術作品が多い	29	12.0%			117	17.3%	22	19.3%
収蔵品が豊富	6	2.5%			16	2.4%	2	1.8%
スタッフの対応が良い	6	2.5%	68	9.6%	68	10.0%	12	10.5%
展示室が借りやすい					10	1.5%	17	14.9%
入場料金が手ごろ	23	9.5%			175	25.8%	15	13.2%
便利の良い場所にある	54	22.4%	85	12.0%	369	54.4%	78	68.4%
周囲の環境が良い			49	6.9%	99	14.6%	15	13.2%
館の雰囲気が良い	50	20.7%	65	9.2%	208	30.7%	35	30.7%
展示室が良い	15	6.2%	80	11.3%	86	12.7%	12	10.5%
良いと思う点はない	14	5.8%			40	5.9%	4	3.5%
わからない	111	46.1%			64	9.4%	11	9.6%
その他・無回答	11	4.6%	54	7.6%	67	9.9%	7	6.1%

パーセンテージは、各集団の回答者数に対する各属性の割合。

### 【福岡県立美術館の不満な点】

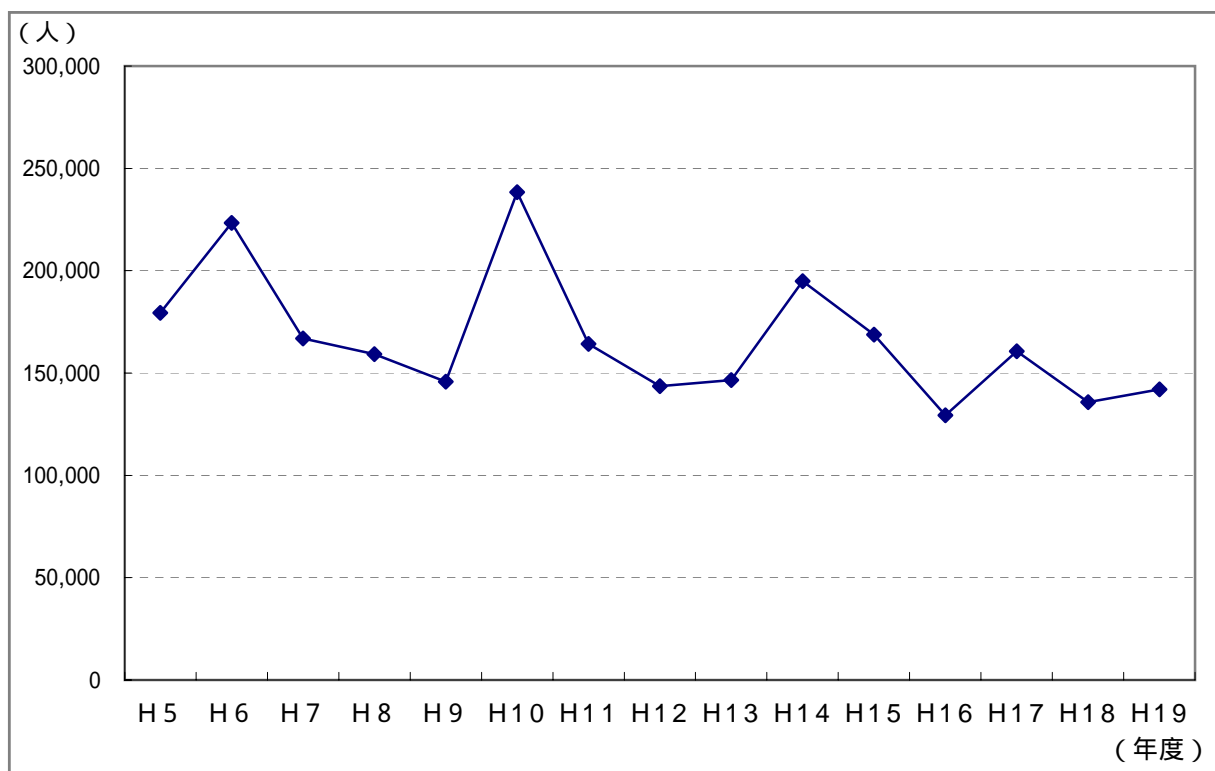
	一般県民		展覧会観覧者		福岡県内創作活動者		福岡県内教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
回答者数	241		707		678		114	
興味のある展覧会が少ない	45	18.7%	37	5.2%	161	23.7%	61	53.5%
福岡県ゆかりの美術作品が少ない	0	0.0%			28	4.1%	0	0.0%
収蔵品がつまらない	10	4.1%			20	2.9%	9	7.9%
スタッフの対応が悪い	8	3.3%	41	5.8%	34	5.0%	0	0.0%
展示室が借りにくい					15	2.2%	2	1.8%
入場料金が高い	22	9.1%			28	4.1%	10	8.8%
不便な場所にある	28	11.6%	118	16.7%	117	17.3%	7	6.1%
周囲の環境が悪い			151	21.4%	105	15.5%	15	13.2%
館の雰囲気が悪い	27	11.2%	87	12.3%	362	53.4%	63	55.3%
展示室が悪い	25	10.4%	80	11.3%	168	24.8%	36	31.6%
不満な点はない	34	14.1%	18	2.5%	106	15.6%	9	7.9%
わからない	105	43.6%			87	12.8%	9	7.9%
その他・無回答	24	10.0%	249	35.2%	101	14.9%	16	14.0%

パーセンテージは、各集団の回答者数に対する各属性の割合。

(平成19年 福岡県教育委員会 調べ)

## 福岡県立美術館の年度別入館者数と来館頻度

### 福岡県立美術館入館者数



平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
179,363	223,410	166,878	159,294	145,784

平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
238,308	164,168	143,533	146,569	194,840

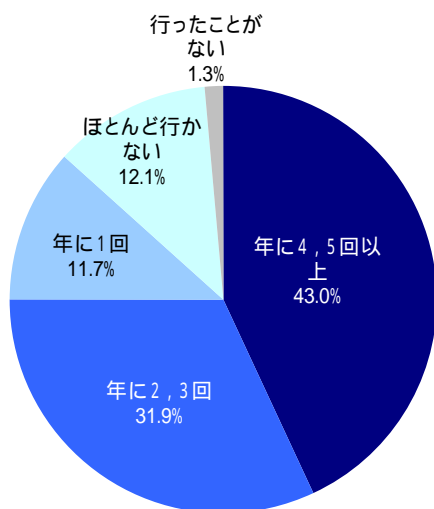
平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
168,791	129,294	160,614	135,842	141,960

(『福岡県立美術館年報』及び平成20年福岡県教育委員会調べ)

## 美術館来館頻度

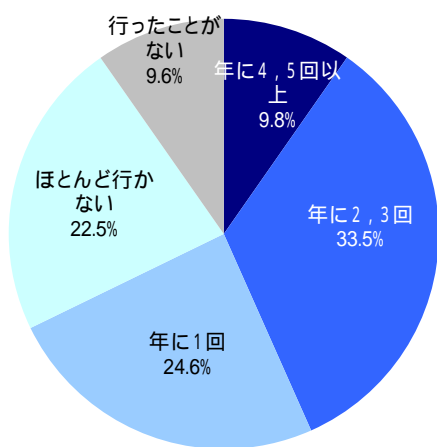
### 【全 体】

#### 美術館来館頻度（福岡県立美術館を含む）



回答者数	2,261(名)
年に4,5回以上	972
年に2,3回	722
年に1回	265
ほとんど行かない	273
行ったことがない	29

#### 福岡県立美術館来館頻度



回答者数	2,201(名)
年に4,5回以上	215
年に2,3回	737
年に1回	542
ほとんど行かない	496
行ったことがない	211

一般県民、展覧会観覧者、福岡県内創作活動者、福岡県内教職員、福岡県内大学の在学学生を対象にしたアンケート調査の集計。

#### 調査の対象

一般県民：平成18年実施「県政モニターアンケート」回答者。

展覧会観覧者：平成19年福岡県立美術館で開催された「華麗なるアール・ヌーヴォー、アール・デコの世界」展、「モーリス・コトリロ」展でのアンケート回答者。

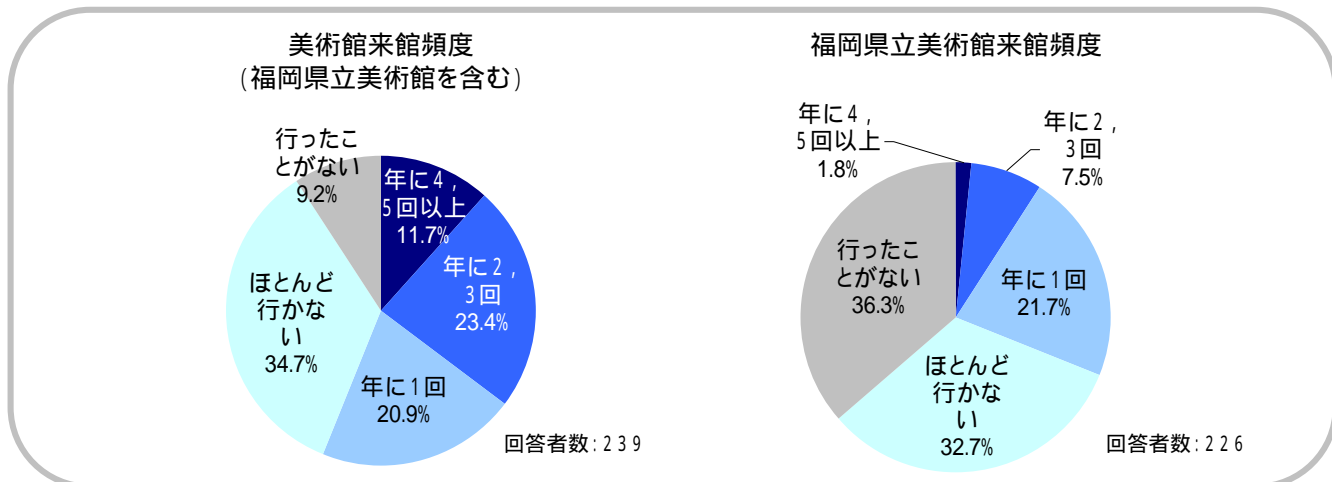
福岡県内創作活動者：平成19年実施「美術活動に関するアンケート」回答者。（平成19年度「第63回福岡県美術展覧会」出品者から抽出。）

福岡県内教職員：平成19年実施「『学校と美術館』についてのアンケート」回答者。（福岡県内の小、中、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の図画工作、美術科担当教員から抽出。）

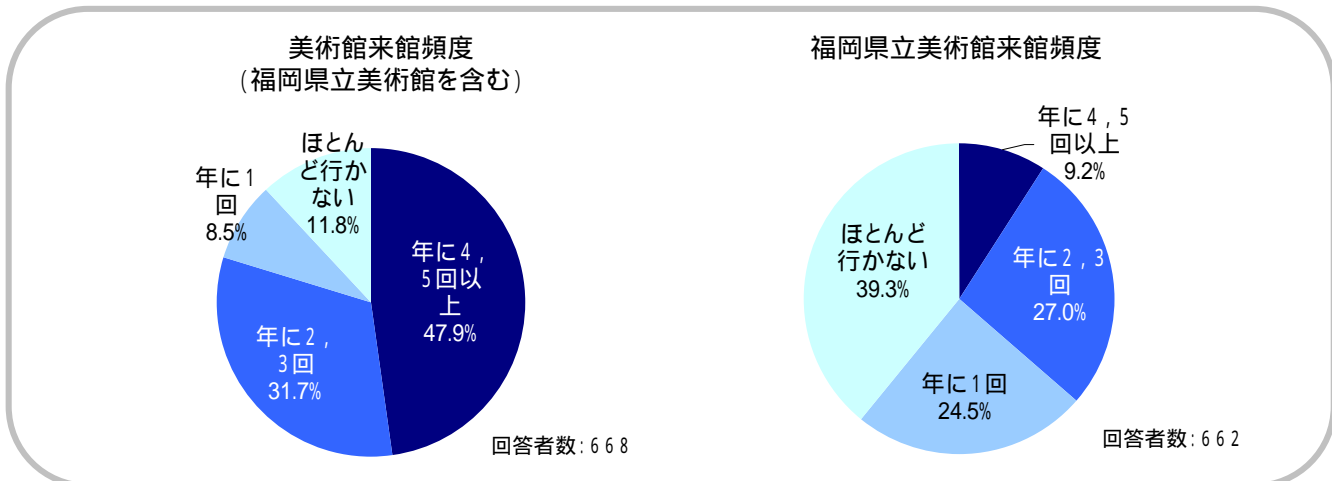
福岡県内大学の在学学生：平成20年実施「美術館に関するアンケート」回答者。（福岡県内の大学に在学し、美術・デザイン・建築等の講座を受講する学生。）



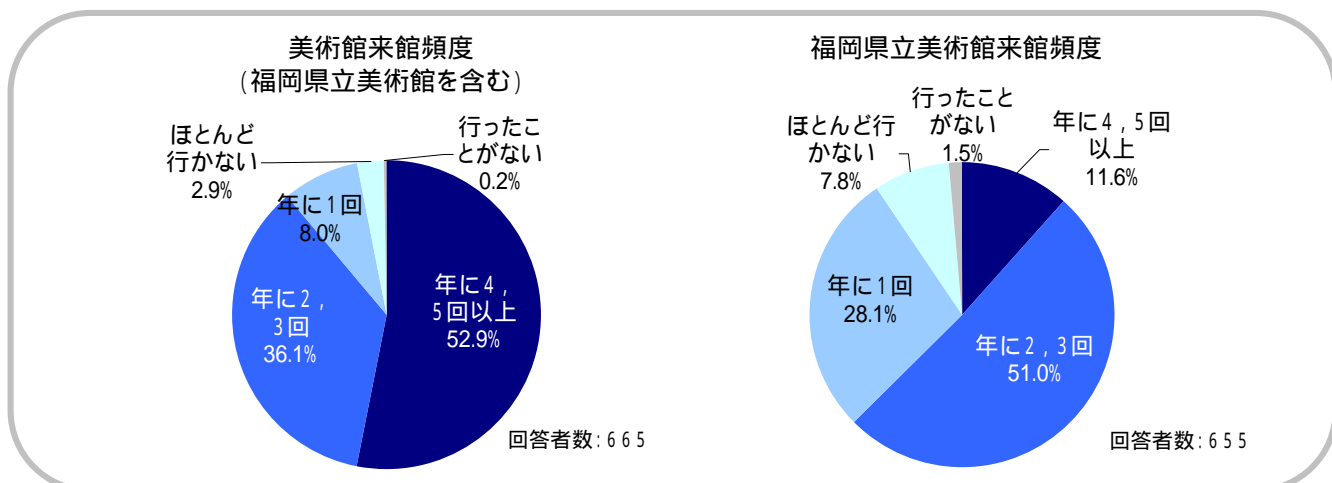
アンケート対象者: 一般県民



アンケート対象者: 展覧会観覧者

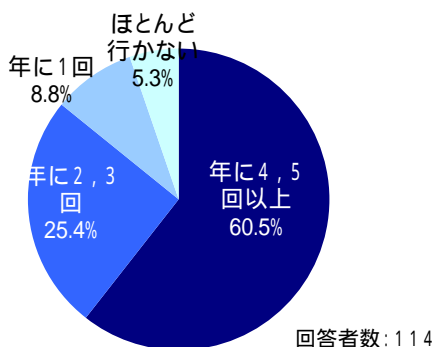


アンケート対象者: 福岡県内創作活動者

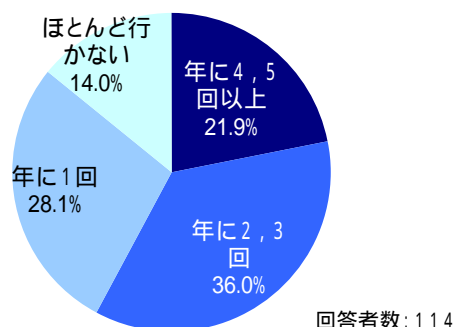


アンケート対象者: 福岡県内教職員

美術館来館頻度  
(福岡県立美術館を含む)

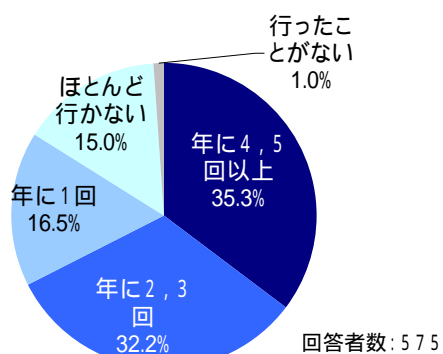


福岡県立美術館来館頻度

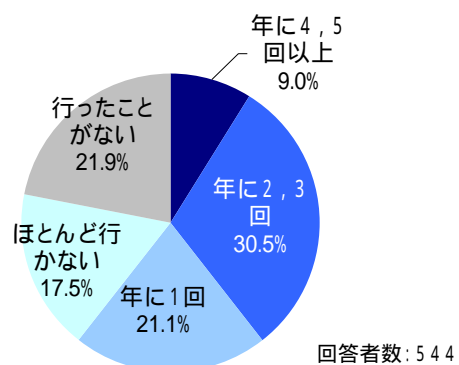


アンケート対象者: 福岡県内大学の在学生

美術館来館頻度  
(福岡県立美術館を含む)



福岡県立美術館来館頻度



パーセンテージは、小数第2位を四捨五入し小数第1位まで表記した。

(平成20年 福岡県教育委員会 調べ)

## 福岡県立美術館の主な展覧会

開催年度	種別	展覧会名	会期	観覧者数 (人)
福岡県文化会館 (昭和39年 開館)				
昭和39年度 (1964)	自主企画	桃山絵画展	11月20日～12月3日	6,488
昭和40年度 (1965)	貸館	九州派展	8月3日～8月8日	500
	貸館	ツタンカーメン展	12月3日～41年1月15日	586,413
昭和41年度 (1966)	自主企画	蒙古襲来絵詞展(模写)	4月5日～4月24日	1,500
	自主企画	日本原始美術展	5月22日～6月19日	27,484
	貸館	ロダン展	11月8日～12月11日	150,125
	貸館	第1回九州・現代美術の動向展	2月21日～2月26日	500
昭和42年度 (1967)	自主企画	宗達光琳派名作展	4月29日～5月14日	21,092
	貸館	ユトリ口展	6月18日～7月2日	73,002
	貸館	ボンベイ古代美術展	7月28日～9月3日	87,000
	貸館	ルノワール展	10月10日～10月29日	82,023
昭和43年度 (1968)	自主企画	奈良興福寺国宝展	5月26日～6月9日	22,624
	貸館	モジリアニ名作展	8月14日～9月1日	56,346
昭和44年度 (1969)	自主企画	九州の仏教美術展	5月4日～6月1日	15,097
	貸館	ゴーギャン展	11月12日～12月7日	77,938
昭和45年度 (1970)	自主企画	九州出身近代作家秀作展	5月2日～5月24日	11,193
	貸館	ミレー展	11月11日～12月6日	119,694
昭和46年度 (1971)	自主企画	近代日本画の名作展	5月1日～5月20日	14,649
	貸館	ボルドー美術館名作展	1月25日～2月13日	106,061
昭和47年度 (1972)	自主企画	中村研一遺作展	11月8日～11月26日	7,401
昭和48年度 (1973)	貸館	モネ展	7月10日～7月29日	75,051
	自主企画	出光コレクション オリエント美術展	11月3日～11月23日	11,596
昭和49年度 (1974)	貸館	セザンヌ展	7月24日～8月18日	81,828
	自主企画	松方コレクション展	10月13日～11月10日	88,709
昭和50年度 (1975)	自主企画	古賀春江回顧展	11月9日～11月30日	29,501
昭和51年度 (1976)	貸館	韓国美術五千年展	4月27日～5月27日	69,356
	自主企画	児島善三郎展	11月14日～12月5日	8,224
	貸館	ドガ展	12月18日～52年1月16日	55,596
昭和52年度 (1977)	自主企画	富田溪仙展	11月6日～11月27日	12,603
	貸館	ピカソ展	1月5日～1月22日	73,182
昭和53年度 (1978)	自主企画	対馬の美術展	10月29日～11月19日	8,332
	貸館	サンパウロ美術館展	1月5日～1月21日	68,222
昭和54年度 (1979)	自主企画	近代洋画と福岡県	3月2日～3月23日	4,387
昭和55年度 (1980)	自主企画	博多承天寺展	2月15日～3月8日	2,847
昭和56年度 (1981)	自主企画	日本画 その伝統と近代の息吹き展	2月28日～3月21日	3,131
昭和57年度 (1982)	自主企画	福岡県の近代工芸	11月6日～11月26日	2,608
昭和58年度 (1983)	貸館	中国秦・兵馬俑展	1月4日～2月11日	115,399
	自主企画	福岡県の近代彫刻	2月26日～3月18日	2,178

開催年度	種別	展覧会名	会期	観覧者数 (人)
福岡県立美術館 (昭和60年 開館)				
昭和60年度 (1985)	自主企画	開館記念展 現代美術の展望'85FUKUOKA 「変貌するイメージーション」	11月3日～11月28日	4,484
	貸館	ユトリ口展	1月5日～2月2日	54,973
昭和61年度 (1986)	自主企画	高島野十郎展	9月30日～10月19日	9,385
	貸館	比叡山と天台の美術展	11月11日～12月14日	27,749
	貸館	英国・国立ウェールズ美術館展	1月4日～2月1日	35,050
	自主企画	御用絵師	3月3日～3月29日	5,647
昭和62年度 (1987)	貸館	大ヴァチカン展	4月29日～5月31日	123,218
	貸館	いわさきちひろ展	7月21日～8月16日	83,325
	自主企画	古上野焼展	10月10日～11月8日	7,642
	実行委員会	第42回春の院展	7月2日～7月19日	9,879
	実行委員会	ベルナルド・ピュッフェ展	1月5日～1月31日	16,800
	実行委員会	フランス革命とロマン主義展	2月2日～2月28日	143,716
	自主企画	イメージの風土学	3月19日～4月17日	4,200
昭和63年度 (1988)	実行委員会	アメリカの時代展	7月15日～8月14日	11,523
	貸館	スウェーデン国立美術館展	10月5日～11月6日	26,036
	自主企画	明治の日本画	10月8日～11月6日	7,035
	実行委員会	ジョアン・ミロ展	11月19日～12月25日	11,592
	実行委員会	佐藤忠良のすべて展	1月4日～2月5日	7,502
	自主企画	日本の絢展	3月4日～3月26日	3,553
平成元年度 (1989)	実行委員会	第44回春の院展	6月29日～7月16日	7,003
	実行委員会	アンディ・ウォーホル展	10月3日～10月29日	8,093
	自主企画	片山摂三写真展	10月14日～11月19日	3,200
	実行委員会	ヘルムート・ニュートン展	11月7日～12月3日	5,429
	貸館	藤の木古墳とその時代展	11月23日～12月25日	26,557
	自主企画	現代美術の展望'90FUKUOKA「変貌する布」	2月27日～3月25日	2,319
平成2年度 (1990)	実行委員会	香月泰男・浜口陽三展	4月10日～5月6日	11,284
	実行委員会	第7回横の会展	6月5日～6月24日	4,413
	実行委員会	大アンデス文明展	7月14日～8月15日	21,971
	実行委員会	ヨーロッパ・アメリカの版画展	10月6日～11月4日	6,133
	自主企画	福岡県現代の工芸秀作展	10月6日～11月4日	2,616
	貸館	モスクワ・プーシキン美術館展	11月8日～12月9日	28,372
	自主企画	歌仙絵	1月4日～2月3日	7,506
	貸館	マヤ文明展	1月4日～2月3日	30,113
	自主企画	北部九州三県合同企画展「西洋絵画への挑戦」	3月6日～3月17日	1,785
平成3年度 (1991)	実行委員会	近代洋画の名作	4月26日～5月26日	15,161
	実行委員会	第46回春の院展	7月4日～7月21日	11,004
	実行委員会	アジア・ジュニア美術展福岡'91	7月30日～8月11日	3,047
	自主企画	福岡鉄齋展	10月5日～11月4日	7,006
	貸館	ダリ展	11月23日～12月26日	62,929
	実行委員会	松枝玉記遺作展	1月5日～1月26日	3,616
	自主企画	上田宇三郎と朱貌社の仲間たち	2月29日～3月29日	2,345
	自主企画	北部九州三県合同企画展「西國工芸博覧會」	3月5日～3月15日	1,213

開催年度	種別	展覧会名	会期	観覧者数 (人)
平成4年度 (1992)	貸館	キスリング展	4月10日～5月10日	15,556
	実行委員会	第9回横の会展	5月15日～6月7日	5,411
	実行委員会	伽邪文化展	10月3日～11月3日	10,076
	実行委員会	ムンク展	11月10日～12月13日	46,708
	貸館	楼蘭王国と悠久の美女	12月22日～2月5日	109,057
	自主企画	イメージの原風景 日本の水彩	1月4日～2月7日	8,786
	自主企画	北部九州三県合同企画展「黄檗禅の美術」	2月11日～2月21日	3,377
平成5年度 (1993)	実行委員会	柿右衛門展	4月29日～5月30日	17,669
	自主企画	両洋の眼・現代の絵画展	7月1日～7月25日	3,492
	実行委員会	アジア・ジュニア美術展福岡'93	8月3日～8月15日	3,387
	自主企画	西瀬戸近代美術展	10月7日～10月31日	1,300
	自主企画	川辺御楯と近代大和絵の系譜	1月6日～2月6日	4,631
平成6年度 (1994)	貸館	19世紀フランス美術の光彩	5月18日～6月19日	21,606
	実行委員会	第37回安井賞展	10月5日～10月29日	7,479
	自主企画	現代美術の展望'94FUKUOKA「七つの対話」	10月5日～11月5日	3,349
	実行委員会	ヨーロッパ工芸新世紀展	11月22日～12月25日	8,042
	実行委員会	マリー・ローランサン展	1月5日～2月5日	37,005
平成7年度 (1995)	実行委員会	日本写真ビエンナーレ'95	4月11日～4月30日	2,456
	実行委員会	フランス印象派からエコール・ド・パリ	5月3日～6月4日	18,171
	貸館	人間国宝展	6月11日～7月16日	39,762
	実行委員会	アジア・ジュニア美術展福岡'95	7月21日～7月30日	2,555
	実行委員会	戦後文化の軌跡	10月8日～11月5日	7,878
	自主企画	郷土美術名鑑 美のパイオニアたち	11月11日～12月3日	2,974
平成8年度 (1996)	実行委員会	映画伝来 シネマトグラフと明治の日本	4月19日～5月19日	3,120
	自主企画	吉村忠夫と松岡映丘一門	10月10日～11月10日	2,391
	実行委員会	荻須高德展	11月15日～12月8日	12,197
	自主企画	第39回安井賞展	11月16日～12月8日	4,686
	貸館	永遠なる敦煌	1月5日～2月11日	34,433
平成9年度 (1997)	実行委員会	青山政吉 日本の四季百景展	4月25日～5月25日	11,260
	自主企画	九州北部三県文化交流展「中村琢二展」	10月9日～11月9日	3,849
	実行委員会	印象派と近代絵画の誕生展	1月31日～3月1日	25,569
平成10年度 (1998)	共同主催	アートの現場・福岡vol.1「Mixed Messages 温室」	4月14日～5月5日	1,842
	貸館	星野富弘 花の詩画展	4月21日～5月10日	33,370
	共同主催	アートの現場・福岡vol.2 「ブリーフ・ターン98 いきなりキック、7分パンチ」	6月2日～6月28日	6,457
	実行委員会	生誕百年記念 佐伯祐三展	5月23日～6月28日	38,394
	共同主催	アートの現場・福岡vol.3「河原美比古展」	10月10日～10月28日	608
	自主企画	宮崎準之助展	10月10日～11月15日	4,005
	共同主催	アートの現場・福岡vol.4「黒鳥晴男展」	10月30日～11月15日	558
	実行委員会	竹久夢二展	2月5日～3月7日	14,212
	貸館	黄金のシルクロード展	2月11日～3月7日	20,822
	自主企画	福岡県展事始め	3月11日～3月28日	1,484

開催年度	種別	展覧会名	会期	観覧者数 (人)
平成11年度 (1999)	実行委員会	永井豪世紀末展	4月24日～5月30日	10,553
	共同主催	アートの現場・福岡vol.5 「リングとステージそしてドライブ」	4月24日～5月30日	2,102
	自主企画	アートにであう夏vol.1「宇治山哲平 ランド」	7月10日～8月29日	3,845
	自主企画	絵馬 神に捧げた祈りの美	10月28日～11月28日	2,985
	共同主催	アートの現場・福岡vol.6「森秀信展 displacement」	10月28日～11月28日	597
	実行委員会	よみがえる正倉院宝物	1月8日～2月13日	32,187
	貸館	藤子・F・不二雄の世界展	3月10日～4月16日	21,782
平成12年度 (2000)	実行委員会	大妖怪展	4月29日～5月28日	18,409
	共同主催	アートの現場・福岡vol.7 「休憩室 ちょっと休んでいきませんか？」	4月29日～6月11日	5,523
	自主企画	アートにであう夏vol.2「瑛丸のヒミツ」	7月8日～8月27日	2,641
	実行委員会	戦没画学生 祈りの絵展	10月6日～11月12日	17,886
	共同主催	アートの現場・福岡vol.8 「八尋晋展 チャンネルをあわせろ！」	10月6日～11月12日	5,366
	自主企画	生誕百年記念 柳瀬正夢展	11月17日～12月17日	2,048
平成13年度 (2001)	共同主催	アートの現場・福岡vol.9 「鈴木淳展 こんなトコで、あんなコト」	5月3日～5月27日	5,002
	実行委員会	朝鮮通信使展	6月10日～7月15日	9,768
	共同主催	アートの現場・福岡vol.10 「絵画・彫刻[2nd]/廣橋勲+黒鳥晴男展」	10月4日～11月4日	10,105
	自主企画	アートにであう秋vol.3「もてなし」	10月4日～11月18日	4,404
	実行委員会	ビュッフェ追悼展	11月9日～12月16日	13,463
	自主企画	斎藤秋圃と筑前の絵師たち	1月5日～2月3日	3,185
平成14年度 (2002)	共同主催	アートの現場・福岡vol.11 「日本キチ学会展 安全第一」	5月11日～6月14日	14,899
	実行委員会	シャガール展	5月12日～6月9日	54,534
	自主企画	アートにであう夏vol.4「クイズdeアート」	7月12日～8月25日	2,719
	共同主催	アートの現場・福岡vol.12「Mixed Messages 漂」	10月1日～10月27日	1,782
	自主企画	田島憲治展	10月4日～11月10日	2,129
	自主企画	安井賞40年の軌跡展	1月5日～2月11日	4,766
平成15年度 (2003)	共同主催	アートの現場・福岡vol.13「RE/MAP 北天神」	5月1日～6月1日	5,960
	自主企画	アートにであう夏vol.5「ふたたび！クイズdeアート」	7月11日～8月28日	2,717
	共同主催	アートの現場・福岡vol.14 「福岡県立美術館、もっと知ってよ、キャンペーン」	10月28日～12月5日	11,068
	実行委員会	ウッドワン美術館所蔵 近代日本の絵画名品展	10月30日～12月7日	24,188
	実行委員会	ディック・ブルーナ展	12月24日～16年2月8日	32,200
	自主企画	生誕90年記念 大内田茂士展	1月4日～2月8日	2,909
平成16年度 (2004)	共同主催	アートの現場・福岡vol.15 「高田麻衣子展 かすかに消えるその膜の向こうに」	6月1日～7月11日	1,414
	実行委員会	大(Oh!)水木しげる展	6月4日～7月11日	18,458
	自主企画	アートにであう夏vol.6「坂本善三・ココロのかたち」	7月17日～8月29日	3,338
	実行委員会	ポール・デルヴォー展	9月10日～10月17日	9,352
	共同主催	アートの現場・福岡vol.16「乃美希久子展 空き家」	9月12日～10月21日	6,546
	自主企画	よみがえる明治絵画 修復された矢田一嘯「蒙古襲来絵図」	2月5日～3月13日	2,870

開催年度	種別	展覧会名	会期	観覧者数 (人)
平成17年度 (2005)	実行委員会	長洲剛詩画展	4月29日～6月5日	30,565
	自主企画	アートにであう夏vol.7「水上泰生の大きな絵展」	7月16日～8月31日	3,021
	実行委員会	バロック・ロココの巨匠	11月19日～12月25日	19,686
	共同主催	アートの現場・福岡vol.17 「坂崎隆一展 長い長い箸(はし)の話」	11月23日～18年1月12日	4,628
	自主企画	没後30年 高島野十郎展	12月2日～18年1月15日	11,627
平成18年度 (2006)	実行委員会	星野富弘 花の詩画展	6月16日～7月23日	19,578
	共同主催	アートの現場・福岡vol.18 「Art Tours Project 稜線の向こうへ」	6月16日～7月23日	15,662
	自主企画	アートにであう夏vol.8「昔の美術はワンダーランド！」	7月15日～8月31日	2,796
	実行委員会	詩人の眼 大岡信コレクション展	11月3日～12月10日	3,640
	共同主催	アートの現場・福岡vol.19 「富永剛 竹を積む、竹を編む」	11月7日～19年1月17日	2,912
	自主企画	生活のくかたち> 豊田勝秋のあゆみに見る昭和の工芸	1月20日～2月25日	2,306
平成19年度 (2007)	共同主催	アートの現場・福岡vol.20 「南たえ子展 Setting / Blue」	4月27日～6月9日	8,267
	実行委員会	華麗なるアール・ヌーボー、アール・デコの世界	4月27日～6月3日	18,655
	自主企画	アートにであう夏vol.9 「墨で描いても！油で描いても！ 山喜多二郎太」	7月14日～8月31日	2,766
	実行委員会	モーリス・ユトリロ展	10月26日～12月2日	25,293
	共同主催	アートの現場・福岡vol.19 「福岡アートフェア・シミュレーション 九州ネットワークの起点として」	10月28日～12月2日	4,000
	自主企画	菊畑茂久馬と物語るオブジェ	11月3日～1月14日	3,746

(「福岡県立美術館年報」及び平成20年福岡県教育委員会調べ)

【資料 - 12】

福岡県立美術館の移動美術館展

年度	実施市町村	会場	実施期間	観覧者数 (人)
平成7年度	大牟田市	大牟田文化会館	9月17日～9月27日(9日間)	3,449
	行橋市	コスメイト行橋	9月30日～10月10日(9日間)	2,327
平成8年度	田川市	田川市美術館	9月18日～9月29日(12日間)	1,748
平成9年度	甘木市	甘木歴史資料館	9月16日～9月28日(13日間)	730
平成10年度	中間市	なかまハーモニーホール	9月12日～9月27日(14日間)	3,301
平成11年度	筑後市	サザンクス筑後	9月11日～9月26日(12日間)	1,311
平成12年度	豊前市	求菩提資料館	9月1日～9月24日(21日間)	2,583
平成13年度	吉井町	矢野家「土蔵」 吉井町立歴史民俗資料館 吉井町立金子文夫資料展示館	4月28日～5月13日(14日間)	4,584
平成14年度	飯塚市	飯塚市歴史資料館	10月6日～11月3日(24日間)	1,822
平成15年度	中間市	なかまハーモニーホール	9月1日～9月7日(6日間)	429
	苅田町	苅田町三原文化会館	9月2日～9月8日(7日間)	460
	北九州市	北九州市八幡市民会館	9月10日～9月16日(7日間)	352
	浮羽町	浮羽町公民館	9月15日～9月21日(7日間)	238
	甘木市	甘木歴史資料館	9月23日～10月1日(9日間)	468
	須恵町	須恵町久我記念美術館	10月4日～10月26日(20日間)	1,317
	豊津町	豊津町歴史民俗資料館	10月12日～10月19日(8日間)	695
	碓井町	碓井町立織田廣喜美術館	10月25日～11月3日(9日間)	336
	瀬高町	瀬高町立図書館	11月2日～11月9日(7日間)	839
	直方市	直方谷尾美術館	11月26日～11月30日(5日間)	245
平成16年度	大川市	大川市立清力美術館	10月26日～11月21日(24日間)	1,576
平成17年度	碓井町	碓井町立織田廣喜美術館	9月10日～10月10日(27日間)	793
平成18年度	古賀市	サンフレアこが	11月14日～12月3日(18日間)	3,029
平成19年度	春日市	春日市ふれあい文化センター	9月29日～10月28日(27日間)	3,376

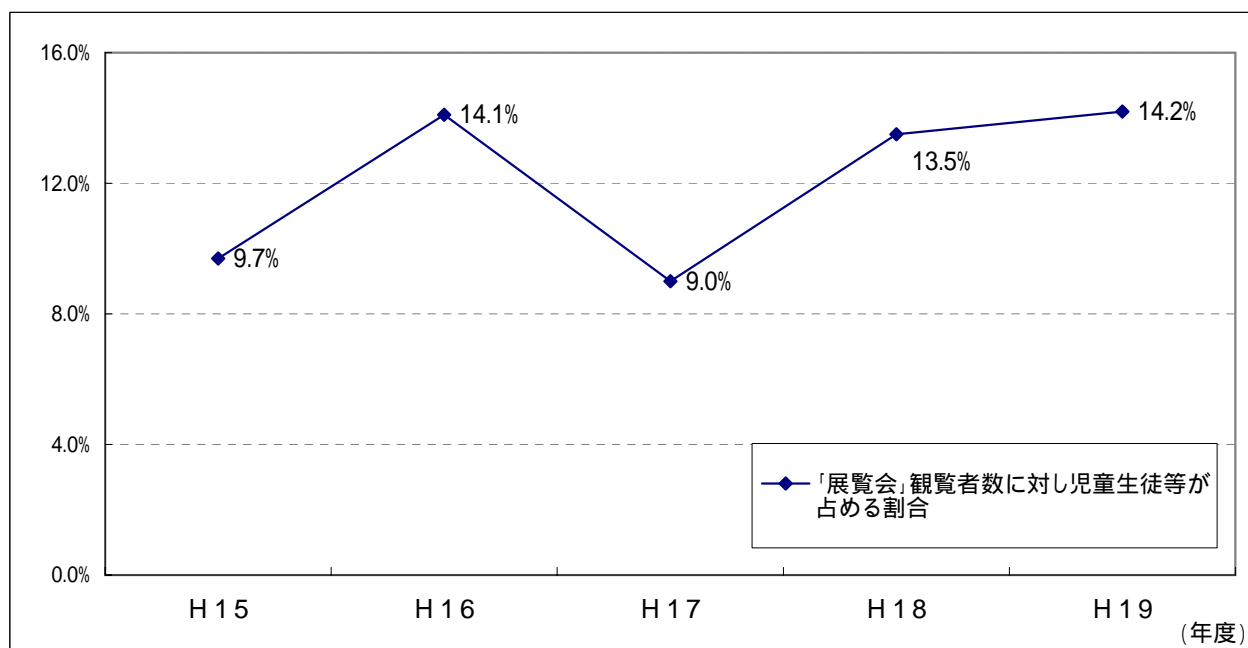
開催時の市町村名及び施設名で表記した。

平成15年度については、国の緊急地域雇用創出特別基金事業に基づいて実施。

(『福岡県立美術館年報』及び平成20年福岡県教育委員会調べ)



## 福岡県立美術館の「展覧会」における児童生徒等の観覧状況



### 【児童生徒等の「展覧会」観覧者数】

年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
「展覧会」観覧者数	80,817	52,397	81,663	47,650	70,706
うち児童生徒等	7,860	7,365	7,371	6,418	10,024
うち高大生	3,866	3,150	3,745	1,673	4,819
うち小中生	2,764	2,671	2,521	3,184	4,192
うち教員引率での観覧	1,230	1,544	1,105	1,561	1,013
児童生徒等が占める割合	9.7%	14.1%	9.0%	13.5%	14.2%

本調査における「展覧会」とは福岡県立美術館が主催している有料の展覧会をいう。

### 【小中学生の観覧が多い「展覧会」】

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
アートにであう夏vol.5 「ふたたび！クイズdeアート」 38.9%	アートにであう夏vol.6 「坂本善三・ココロのかたち」 28.6%	アートにであう夏vol.7 「水上泰生の大きな絵画」 26.5%	移動美術館展 (古賀市) 41.8%	移動美術館展 (春日市) 71.9%
コレクション展 14.1%	よみがえる明治絵画 修復された矢田一嘯 「蒙古襲来絵図」 11.7%	コレクション展 9.6%	アートにであう夏vol.8 「昔の美術はワンダーランド！」 29.8%	アートにであう夏vol.9 「墨で描いても！油で描いても！」 山喜多二郎太。 22.1%
ディック・ブルーナ展 4.3%	大(Oh!)水木しげる展 10.5%	没後30年 高島野十郎展 3.8%	生活の かたち 豊田勝秋のあゆみに見る 昭和の工芸 23.6%	菊畑茂久馬と 物語るオブジェ 9.2%

パーセンテージは「展覧会」ごとの総観覧者数に対する、小中学生の割合。

(平成20年 福岡県教育委員会 調べ)

【資料 - 14】

福岡県立美術館の展示室の提供状況

年 度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
利用団体(個人)数	65	43	58	67	56
うち教育関係団体数	14	11	15	18	13
観覧者数(人)	53,706	63,909	51,154	60,024	49,911

【教育関係団体の展示室利用状況】

主 催 団 体	展 覧 会 名
九州高等学校 デザイン科	九州高等学校デザイン科展、卒業制作展
九州産業大学 芸術学部	九州産業大学芸術学部写真学科卒業制作展
	九州産業大学芸術学部写真学科研究室展
	Sai展
	テキスタイルアートgrasp
	WORKS' 写真展
九州産業大学 芸術学部大学院	九州産業大学芸術学部大学院卒業制作展
九州産業大学 美術部	九州産業大学美術部展
九州造形短期大学	九州造形短期大学 卒業制作展
九州大学 写真部	九州大学写真部展
佐賀大学 文化教育学部美術工芸課程木工研究室	WOOD WORKS遊木
福岡学生書道連盟	福岡学生書道連盟連盟展
	福岡学生書道連盟卒業記念展
福岡教育大学 中等教育教員養成課程 書道専攻	福岡教育大学中等教育教員養成課程書道専攻卒業制作展
	福岡教育大学書道科全学年書作展
福岡教育大学 美術教育講座	福岡教育大学美術教育講座卒業制作展
福岡県高等学校芸術・文化連盟	福岡県高等学校総合文化祭書道展
	福岡県高等学校総合文化祭美術・工芸展
	福岡県高等学校芸術・文化連盟デザインコンペ・絵はがきコンクール
	福岡県高等学校芸術・文化連盟福岡地区書道展
	福岡県高等学校芸術・文化連盟福岡地区美術・工芸展
福岡県高等学校美術・工芸部会	むかいあう教師と生徒展
福岡県中学校美術教育研究会	福岡県中学校美術作品展
福岡県中学校文化連盟	福岡県中学校美術部合同作品展
福岡県立太宰府高等学校 芸術科	福岡県立太宰府高等学校芸術科卒業制作展
福岡市中学校美術教育研究会	福岡市中学校美術部合同作品展

平成15年度から平成19年度の間に、児童生徒等の作品展を開催した教育関係団体を示した。

(『福岡県立美術館年報』及び平成20年福岡県教育委員会調べ)

## 福岡県立美術館の収蔵品及び資料

## 【収蔵美術品数】

種 別	購入件数	寄贈件数
日本画	86	93
洋画	131	1,569
彫刻	26	86
工芸	82	219
その他	2	86
小計	327	2,053
合計		2,380

## 【美術図書室収納図書資料数】

種 別	総冊数
美術総記	4,414
日本美術	3,239
西洋美術	1,991
東洋美術	442
図録	14,677
福岡資料	1,697
関係諸学	1,508
雑誌(23タイトル)	11,769
合計	39,737

## 【ビデオテープ数】

種 別	本数
当館企画展覧会	6
西洋美術	46
現代美術	6
東洋美術	16
世界古代遺跡	25
日本美術(平安時代)	27
日本美術(中世～近世)	28
日本美術(近代日本画・洋画等)	26
日本美術(近代工芸)	63
技法・学習	30
その他	16
合計	289

## 【ハイビジョンソフト数】

種 類	タイトル数
日本で見られる19世紀フランス美術	20
パリで見られる19世紀フランス美術	20
パリで見られる19世紀フランス美術	10
人物画の名品	10
印象派展覧会	8
連作の魅力	12
都市の表情	4
合計	84

平成19年3月31日現在。

(『平成18年度福岡県立美術館年報』)



## 福岡県立美術館将来構想検討委員会設置要項

(目的)

第1条 福岡県立美術館の新しい在り方について所要の検討を行うため、福岡県教育庁に福岡県立美術館将来構想検討委員会(以下「検討委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事務を行う。

- (1) 福岡県立美術館の機能の分析及び評価に関すること。
- (2) 全国や福岡県内の芸術文化の現状及び美術館の動向調査に関すること。
- (3) 福岡県立美術館に求められる理念に関すること。
- (4) 福岡県立美術館に求められる具体的な機能に関すること。
- (5) その他必要な事項

(組織)

第3条 検討委員会は、学識経験を有する者のうちから福岡県教育委員会教育長が委嘱する14人の委員で組織する。

- 2 検討委員会に会長及び副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、福岡県教育委員会教育長が指名する。
- 4 会長は、検討委員会を代表する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理する。

(会議)

第4条 検討委員会の会議は、会長が招集し、主宰する。

- 2 会長は、必要に応じて、委員以外の者を会議に出席させることができる。

(分科会の設置)

第5条 検討委員会に分科会を置くことができる。

- 2 分科会の運営は、会長が別に定める。

(設置期間)

第6条 検討委員会の設置期間は、検討委員会が設置された日から第1条の目的を達成する日までとする。

(庶務)

第7条 検討委員会の事務局を福岡県教育庁教育企画部社会教育課に置き、事務局において検討委員会の庶務を処理する。

(随時検討)

第8条 事務局は、随時、委員とともに検討委員会の事務について検討を行うことができるものとする。

(補則)

第9条 この要項に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、会長が検討委員会に諮って定める。

附 則

この要項は、平成19年3月23日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

福岡県立美術館将来構想検討委員会委員名簿

氏 名	所 属 等	備 考
逢坂恵理子	森美術館プログラムディレクター	ハード分野分科会委員
小野博人	西日本新聞社事業局長 株式会社 西日本新聞イベントサービス代表取締役社長	(平成19年7月から)
川原 健	株式会社 ふくや 代表取締役会長	
菊畑茂久馬	画 家	
工藤 卓	近畿大学教授	ハード分野分科会委員 (座長)
熊倉純子	東京芸術大学准教授	ソフト分野分科会委員
後藤新治	西南学院大学教授	ソフト分野分科会委員
高階秀爾	財団法人 大原美術館長	
出口 敦	九州大学教授	ハード分野分科会委員
船津春美	中間市教育委員会教育長	
古野靖弘	社団法人 福岡県美術協会理事長	
水口敬司	昭和鉄工 株式会社 相談役 九州ベンチャーパートナーズ 株式会社 代表取締役社長	
吉武弘喜	九州造形短期大学長 九州産業大学美術館長	ソフト分野分科会委員 (座長)
脇田洋子	志免町立志免東小学校長	
土山昭則	西日本新聞社事業局長 株式会社 西日本新聞イベントサービス代表取締役社長	(平成19年6月まで) 所属等は在任時

会長

副会長

(敬称略・50音順)  
(平成20年8月現在)

## 福岡県立美術館将来構想検討委員会の審議の経緯

### 第1回将来構想検討委員会

日時：平成19年3月23日（金）

- 議事：1．福岡県立美術館将来構想検討委員会の設置趣旨について  
2．検討方法・検討スケジュールについて  
3．福岡県立美術館の現状及び課題について  
会議後、福岡県立美術館の現地視察と意見交換

### 第2回将来構想検討委員会

日時：平成19年7月30日（月）

- 議事：1．福岡県立美術館が目指す方向性について  
2．分科会の設置について

### ソフト分野第1回分科会

日時：平成19年8月28日（火）

- 議事：1．美術館の本質的な活動について  
2．これからの美術館の可能性について  
福岡県内の美術館（福岡市美術館、福岡アジア美術館、石橋美術館、直方谷尾美術館）学芸員及び九州大学の博物館学研究者をオブザーバーとして招く。

### ソフト分野第2回分科会

日時：平成19年10月19日（金）

- 議事：1．福岡県立美術館の将来像の具体化について

### ソフト分野第3回分科会

日時：平成19年12月18日（火）

- 議事：1．ソフト分野中間報告「福岡県立美術館が目指す方向性について」

### 第3回将来構想検討委員会

日時：平成20年1月23日（水）

- 議事：1．美術館に関するアンケート結果報告  
2．分科会（ソフト分野）中間報告「福岡県立美術館が目指す方向性について」  
3．分科会（ハード分野）の設置

#### ソフト分野第4回分科会・ハード分野第1回分科会

日時：平成20年2月21日（木）

- 議事：1．「中間報告」についての検討  
2．今後の分科会の検討課題  
3．大学生を対象としたアンケートについて  
ソフト分野とハード分野の合同分科会として開催。

#### ソフト分野第5回分科会

日時：平成20年3月27日（木）

- 議事：1．福岡県立美術館将来構想委員会「中間報告」に向けての検討

#### ハード分野第2回分科会

日時：平成20年4月16日（水）

- 議事：1．福岡県立美術館将来構想委員会「中間報告」に向けての検討

#### ソフト分野第6回分科会・ハード分野第3回分科会

日時：平成20年6月25日（水）

- 議事：1．福岡県立美術館将来構想検討委員会「中間報告（案）」について  
ソフト分野とハード分野の合同分科会として開催。

#### **第4回将来構想検討委員会**

日時：平成20年7月3日（木）

- 議事：1．今後の予定について  
1．福岡県立美術館将来構想検討委員会中間報告について

#### ソフト分野第7回分科会・ハード分野第4回分科会

日時：平成20年8月8日（金）

- 議事：1．中間報告に関する意見募集の結果について  
2．福岡県立美術館将来構想検討委員会報告（案）について  
ソフト分野とハード分野の合同分科会として開催。

#### **第5回将来構想検討委員会**

日時：平成20年8月28日（木）

- 議事：1．中間報告に関する意見募集の結果について  
2．報告（案）について



